祇社費日記
冬
14
3157
26(4上)

俳諧発句題叢毛總目録

毛之上

十月物　小六月 三　玄猪 四　神新嘗　神送　時雨 九　松風時雨　物水 十六　教百姓

神無月 二　神送　達磨忌　十物　炉開　夕時雨 十三　出まず　物寒　神無月十八　風 二十

時雨月　神送　芭蕉忌　夷講 六　菜口切　秋時雨 十四　物雲　神無月十七　根古蔵祭　木立 廿二

小春　物毛　神食講 五　神取越　物時雨 七　川辺時雨 十五　物霜　根古蔵祭　毛木立 廿二

64
3157
26
(4之)

冬松 廿三　霧松　雲松 廿四　松柳
松柏　松芭　松尾花 廿五　冬芝 廿六
松芦　松萩 廿七　松蘭　松蓮
松雛鳥　松菊 廿八　松葡萄　松藤
松鷹　松蕨　松葱　松簾
松葵　松芝　冬菊　冬芝 廿九
松月　楼月 三十　山茱萸花 卅一　帰花
枇杷花 卅二　八角花 卅三　冬牡丹　茶花 卅四
麦穂　冬蝶　冬蝿　冬螳螂 卅五
冬虫　網代もの　氷魚 卅六　栄凌
竹筍　黄鳥　千鳥 卅七　鴫 四十

鴨 四十一　小鴨 四十二　鈴鴨　鴛鴦
鸊鷉（アヂムラ） 四十三　水鳥　浮寝鳥 四十四　木兎
象 四十五　鶺鴒　冬鶯 四十六　鶯子鳴
冬こもり
霜月 四十七　冬笑　芝居顔見世　髮置 四十八
袴着　御火焼　吹革祭　子祭
子焼ん　神楽　里神楽 四十九　空也忌
鉢敲 五十　大師講 五十一　御仏名　霜 五十二
初霜 五十三　霜夜 五十四　霜凍 五十五　霜柱
霜花　雪 五十六　初雪 五十八　大雪 五十九
夜雪 六十　月前雪 六十一　深雪 六十二　山雪

雪 六十三
原雪 六十四
川雪
雪見
雪兔
雪車
身水 六十七
清水
霙
煮水
生姜酒
苍雪
海雪
江雪
雪碟
雪吹
雪垣 六十六
星水
濟
霰 六十九
雪餅
蕎麦湯
林雪
滷雪
里雪
雪鳥
雪半
水柱
清所
雨 七十
藥飯
胝 七十二
水雪
魚雪
庭雪 六十五
雪仏
雪岩
氷
寒水 六十八
凍
雨 七十一
鶏卵酒
膵

雪花
雪菊 七十三
雪梅
雪桂
殺 七十七
乾雞
鷹 八十
雪若
雪鷹
于菜
凡呂吹
濟
石蕗花
雪柳
梔花 七十六
雞 七十八
鮒 七十九
鷹狩
遠雪狩
鶏巣
葱
納豆
櫻桃
宮咲柳
臘梅
梅花
緑
壮蛎
愛雪
力芋
大根蕪
生姜漬 八十三
水紀
早梅 七十四
雪桂 七十五
生海鼠
鄰
杜夫魚
雪呼 八十一
教芋
芋蕪 八十二
濟漬

[illegible]
[illegible] 八十五
[illegible] 八十六
[illegible] 八十七
[illegible] 八十八
[illegible] 八十九
[illegible] 九十
[illegible] 九十一
[illegible] 九十二
[illegible] 九十三
[illegible] 九十四
[illegible] 九十五
[illegible] 九十六
[illegible] 九十七
[illegible] 九十八
[illegible] 九十九
[illegible] 百一
[illegible] 百二
[illegible] 百三
[illegible] 百四
[illegible] 百五
[illegible] 百六
[illegible] 百七
[illegible] 百八
[illegible] 百九
[illegible] 百十
[illegible] 百十一
[illegible] 百十二
[illegible] 百十三
[illegible] 百十四
[illegible] 百十五
[illegible] 百十六
[illegible] 百十七

年の門　年鹿　去近　去行
来る年　百七　年殺　年雪　年暮
行く年　百十八　焼年　百九　大鳴り　除夜　百廿
年梅　年鶴

冬日深夜

早稲田大学

十

十月の山に月合すを囲炉　蘇丘太祇輯
十月や横ハ花の木ゝ枯　存亜
十月や柳ニ筋にゝ枯ぬ　樗牛
十月や多くの亟あり　朱六
十月や多くに人ハ時雨　丈左
十月ハ雨ニ梅の芽ふくれ　朱英
十月ハ井に花の名残り　完来
十月ハ井に花の名残り　自化
十月や雲つゝ和ぬ　花ちる　寒鳴
　　玉房

すもゝにすもゝ葉の花　陸奥　支素
すゝ人迄迄をふくふる　尾風
すゝ光を見よる素火か　一瓢
すゝ顔のよれ見るれ　扶長
すゝ水をにくるり和切　世丹
すゝ三春の白に見る　能久　其宋
すゝ他にふさく庵うし　赤　家慈
すゝ人に見馬の係の木　扶光
すゝ笠踏て見り　乙馬　琴乙
すゝ子られて見る赤見　吉は　南原
すゝ茅にうこうるのつ　ちゆ

茅屋見　家に居て他人を
酒のあるハ茅屋見
小笠ふく風し行て
行しもなくふく春の
酒しなる國ある春し
ふりやき狭ふつ
捨ある白なり
忘のあるさまり
小　春　魚釣の編笠
酒氏言一日
ひハと蕉夫の

茅市　昭光　業兆　道光　学笠　一瓢　雪橋　麦子　晩春　仝　蕉古

白妙
姫九
百下
柳亜
朱六
朱吳
仝
道元
仝
魯陽
寛松

小六月

芙蓉
渡物
右桂
柳乃
云雄
芝心
樹翠
月蓉
柳
右節
玉屑

雪道

それ古れ貧之雪も夜借きて　一葉

雪折りさゝずれたてし畫かな　芦元

雪道踏れ見ゆる松の風　飛州 双烏

雪留る

雪の留るを夜ハ鷺のふるつ来て　恒丸

惠の玉雪の夜留るとゟ見へ之　米兵

てる月の小山の雪しもおる寺かな　笘庵

さそておる寸雪の杖の見る寺哉　寛松

初冬

初冬やふさつ子れ業しるゝる　暁雲

初冬の枝に入てやなりはるり　蒼古

初冬さと居しゝや鷺の良　恒丸

初冬の白ますのにハ鴨かれ　南岳

初冬や浅茅か古の董の泥　其乙

初冬や微見流へ古大根　樹翠

初冬や氣鴨の覗く子の窓　陸奥 業布

初冬や本れ乃れ見る山の氣　角米

米氷弁小霧ゞ古の雲の子かな　蒼古

雲猿

子さまてハされもたはゞゐのこれ　紫多

ゐのこゝろ氣しる萩の嵐かな　万和

達磨忌

達磨忌や廓あゝて菜大根　蒼古

たるまやさしゝ来る漆氏　内旋

達磨忌やせハおれてる木履哉　保吉

たるまやんさとある跡の白れ　定厚

達ル忌やたるみもしらぬ俳一筋　完来

達ル忌や母覚るハ望き嶋　浣斎

達ル忌や葡天の入汁の中　乙二

たるおむや小白するゝ宗の穴　惟平

芭蕉忌

はせをさへおや志るゝ雨も来貫に　擢貞

風に古人あまりの筆ナきし　仝

はせをおや塚も日本の國の数　冬醸

雲に外て打けれ入る地三尺　暁台

霜志きりゐふハおゐ夏きもる　闌更

はせをおや氣木ゝさめ名ふの日　春亜

世にふるはさしにそをの時雨かな　士朗

雪や千代はそれ時雨の翁の日　旺九

時雨会や古ハ須の松の風　一草

いたゞきそ念ハ翁の旅硯　道彦

精叢子人いたく時雨ず　魚頂

笠の像耶蘇も礻あさめ　曰人

名もたぬ松もおつ翁の日　尼 素月

御命講

打ぬいて為も月に菊ゝ来　浪花 蕉里

清涼漢

浪班に引も礼ゝ遍礼わ僕　漢的

十月の夜ハ日本の涅槃かな　百鴻

十夜

あれたゞと菓しなるくとナ夜かな　菊亭

氣色ハ学ゝに來ろナ夜かな　葛古

義なやすあの屋の業を
樫夫氣も十あのとりしわ
嗚呼夜自樫て出るすあわ
すこれ十あ年の汗の羊扶子
自も凡ぬ十あ年り九参年つ
法夫ら近ろこ十あわ
南北ど大相夫近すあわ
末河孫も大のけるやさぬすあわ
ちろの西志も自すすあわ
作あや十あ年り九内海同士
表夫やもつれ立てりすあわ

凡董
白硝
在亜
朱夫
道夫
夫曲
自紀
公
一業
濃湖
至婆

惠比須講

在夫ろ梅ろれろ夫 誕
紀の立て一ろすや夫 こ
ろあむ凡の出ろ夫 講
夫ろ一この和ろいろ凡す
夫元夫て俗游もすす夫こ
俳ろ彩て昔ろ出ろ夫こ
業相も夫ろのれろ彩ろ
非 匠 一月の清夫も掃て非ろ凡
非匠ろやろ一ろやろの
炉 用 炉を用て夫ろ元一ん和
炉耳や夫ろの義酒

梵夫
柳凡
大江凡
道夫
宮和
女殿凡
玄甫
懐多
伊勢
健久
懐夫
辛市

炉開のおしゆうや薄氷　百川
炉開やあんたさまも松元坊　重厚
炉開やまれにあるは井の奥　除湖
菜に切口切や海苔の價も高騰　蕉左
口切やたうろう点ろう氣の風　素丸
にがうりもされハ冬ハ冬でもあるしよ　尺艾
初何日　四の条ハ老蘆のもや初何日　柳孔
鶴ひとたちもしよ何日　蕉夢
義士のおくりうしろ初何日　全
その条ろ布の絵や初何日　多隆
初午のにぎやかしく何日ぬ　也足

秋の気ろ手ありとされハ初何日　樗良
柱ろ松ろ松ろの不和ろ氣　蕉左
一袋松ろ松ろより和何日　白梅
ろのハ淫と淫ろ氣　書蕉
初何日相いろやもめ氣ろ　春田
メ芋のあれハそれ初何日　蹄石
初何日名の付ろ芋ろ　斗入
初何日みちるろ氣ろ　土鈴
初何日いろくに芋ハ　樗史
清壷の清し出ぬ初何日　全
いたぐれ原あてろ初何日　丈左

よりあひし山桝さへやしくるゝ　宋兆
しくるゝ茶粥の後にふ足之　見直
しくるゝこの衣せも捨るし　不染
かゝるに来てん枯りやしくるゝ　仝
打ちとる身をも見しやしくるゝ　甘谷
なのりたる前のさゝふしくるゝ　菁之
うきうちハるかり晴てしくれ　一字
山人ハ木束すゝししくれ　乙二
石蕗ハさて芒ハ枯てしくれ　眞之
山里ハおのふ空へしくるゝ　月兆
晴しかる僧まて戻る夜しくるゝ　仝

茶に浪もなく舟かゝりしくるゝ　蒼虬
七瀬まゐ丈も秋さりしくるゝ　月化
杵林に人こもりけりしくれ　岳輅
おりしも茶人に入るやしくるゝ　嵜阁
つゝの祖父ハ下戸としくるゝ　堤蔭
杖つくほとの木挽かれしくるゝ　学荁
たゞつしよせの杉ふしやしくるゝ　参光
乾ふむ後て茶もありしくるゝ　一茶
しくるゝに河渉ゝてれ止ミにけり　寛松
しくるゝ常麦の首途かな　應人
しくるゝ人ハ手析木に古山木に　幽嘯

大仏殿の鬼も笠を被ける
雲の板のより来て初る
江の上に人ゝ初しゝ
初しゝ
初ける
京柳
素湯
二十人
下る
時

年池
井肩
武陵
及芳
志宁
雲芳
鈴鹿
素流
きく
了國
松石

大粒る春めつらや初しゝ
初ける
栗あれの
栗
小る
初ける
松に
雪の井に
さし越や
清の
沙

尾張 逸人
若雄
美芳
柳史
伊勢 西牛
備中 素竹
一雄
無村
晩素
仝
几董

付句

白樓
保吉
盛吉
仝
陶石
半入
大江丸
土鈴
仝
仝
抑莊

鎮六
春亜
蘆塗
淵江
弗云
長葉
木僊
搖光
仝
葉光
仝

[illegible]のおしまあれハかるうち
乗の分をもうもるかるゝれ
波者のきさらゆくかるわ
尽さうちに人ありゆくかるわ
橋のよもあれハなるしられよ
さきれあれ山橋戸もかるわ
陸尺の神寺ありてりかる
しられすき人のうち一つ乗
きさうや紙にうちき兼元
裏戸の時のちうるかるわ
きさうきあるれかりれて荒のう

宋英　　
仝　　
有山　　
[illegible]
仝　　
鬼孫　　
一子　　
仝　　
吉郷　　
道長　　
仝　　

山里に薬師のうち[illegible]かるわ
[illegible]やれんの先のかるわ
ちうかうとるの身[illegible]かるわ
[illegible]かるて通りうう
るさうう人松原三里村かる
集の人に橋表[illegible]かるわ
立波の家を[illegible]かるわ
つの山州とうハかるうう
かるるさうれうすの養る山乗わ
山里や寄のかるうてかる
花ちうきうやかるの塩根子

無籍　　
仝　　
尺文　　
出高　　
鬼前　　
雪登　　
中高　　
寄閑　　
雲橋　　
童松　　
尊順　　

江のさやしてゝ山の寺の鐘　桂堂
樹の中ハ師走さりや華の様　蕉白
切りくれ後そ師走の中ゝ哉　斎人
しくれ日ハ人をも見えし夢の名　可和
来るや木樵の色ハさらもさく　蕪そう
まち戸して人の来もなき師走哉　可安
たや十ちも師走すかり山の家　風介
しなそそらぬ小笠の雨をしれ　梅僊
浮人も雛もなく師走哉　快喜
㮈木や師走渡りと出たり　秋光
月の鞍の並松色そ師走哉　高頂

あたらしの梅の古枝師走かな　又蒲
氣遣の一蔵もくしくれか　石海
おもくと見ゆる師走のこころかな　女 ちよ
年よみ折るをしるてそれ金　美蒙
あるまハ見しえ業師走かな　秋鬼
鐘の紀經済したる師走かな　梅丈
しなさや猪の捕れし春の月　上野 康古
来光てあるも師走のあはれし　淡路 李长
あら海をさかれて通る師走かな　江戸 都文
塩竈の瀧捨てある師走かな　伊賀 猿来
世の中く師走の道やむずかし　拱翠

あれくて　屋葉自ハ　何ものか　ハ　故中　壺仙
芋の葉も何ものかのりの葉にてう　阿量
しくてや内者をとの世欲仙　一慕
老れを貴て何ものかのくりの手　朱陵
以とのすくすくすくと来る何ものか　蓋頭
兎角して何ものかまくと来にてう　六鼎
しくてや肩もくれぬ小見を安　与静
清くて何ものかのをとをかり　公雅
来ぬ人を葉ばたをる何ものか　木子
猪野の人とくれて咲何ものか　卜幾
上法の嵐を深くしくれか　了意
丶　一塙

松よりも何ものかやすかて漁笛　李天
るまりくれしてハ考うり丘の京　早斐　百二
菜麦の光にてをる何ものか　安藝　白邦
塗方の寓共たてる何ものか　伊勢　丹嶺
何ものより大ぶく来る松の自　道石　還古
るさくら考れハ手何ものか　尼　英月
何ものをるくて以ををりぬ　平楼
老くくくハ小をるさて何ものか　拙巳
ゆくて方のハ何ものの花　ちくん　作元
老くくや耳にくく来る指の声　秀教
何ものくんをる鶏の時　二蘭

一つ乱さるつちくれて障子白
岩角に麻の葉をむすび付白
琴笛を奏れゆゝしく文白
文されば白うちし掾の上
白雲来て又忘れり文わ
文書て別しと雲の白わ
手枕をして初蕎麦をかく文白
白雲うちめぬ文の掾末山
夜さいそゝ窓や白の枕つゝ
白雲をゆゝや文の手すき
文書を寄て旅白

蕭蕭　女志宇
桐月
文常
直接
電路

夜白

乱の障子をゆすて荒わ
白雲や嵐のうゝ琴の上
乱白人の白を注わ
灯人の来ぬ灯そ小夜白
小夜白屋の分かりう
屋うてさゝの白関わ
屋の夜をあけて夜白わ
うゝよりうゝ白うれ
手白きうゆけりわ小枕灯
夜白や枕の下のゝすゝ
独みや古人の小夜白

名頃
芋村
蕉古
仝
保吉
美臣
民龍
美二
平入
恒九
仝
士訪

長翠
義定
天屠
月代
一茶
護国
松藻
茶也
流水
春魯
抵杖

川青竹
松風竹
赤大きく
初雪

懷炉
出雲
乙鬼
紀氏
和連
授子
松花
長高
長吉
飛梁
白雄
姫九
蕉白
松藻

初雪

初雪や田中の杭のみな
初雪の庭をたゝけや柳の
初雪や流のくゞめ岩の上
初雪や徒士られ竹筆
初雪の山中又引迯庵
初雪や元屋敷に有り合を
初雪や流て乳さ抓りつゝ
初雪のとゝろ〻〻〻〻の
初雪やつむおの子の〻〻二才
初雪や庵の〻〻けハ根白〻
初雪や人の居る松木笠

柳花
菩提
渓〻
保吉
岱吉
蕣花仙
手入
自樂
垂流
姫九
士郎

初雪や〻る家の〻の立る
初雪や庭に出たる梅の花
初雪に尼たゝ〻〻義の我らしる
初雪のつりやゝ〻る垣根子
押抓り初雪を〻て来ちゝさいる
初雪や松ハ協自の〻月花
初雪の〻〻や木〻に咲さりし
初雪や厨の窓をいさり〻
初雪のこゝ〻ありたゝ人の上
初雪や古ゆこゝる塑の穴
初雪や人の庭を〻ハけれき

樓生
宋英
義義
一子
冥〻
岳猪
道義
素卿
少汝
一茶
雲橋

釣氷

釣舟やよそにとまれる山ふかみ　秋夫
釣舟や氷もまけて入江人　一蕙
釣舟やたえず千鳥のなれし風　百孝
釣舟や揺にのぼる松の枝　流洵
釣舟やこほりて操を立直し　東雨
釣舟や氷も花も山のかげ　小兎
小舟ほどの袖まもなき千鳥の宿　玉光
釣舟やとしの氷を嫌し　弓手
暁に出来てもまたり釣こほり　雪明
釣氷さはる鴨ありかり　岳雅
兎も角も氷の暁の釣こほり　光好 除露

落葉

まつ火に落葉多かりけり　暁花
木の葉らく楼のうへに落葉かな　仝
旅人の足音きよし落葉かな　義歩
まけれは落葉にまぎる庵かな　白梅
山人の身を風の落葉かな　儀古
小庭へ吉も落葉かな　斗入
落葉する山路かな　俊書
青みつく落葉かな　仝
落葉から淡き遠近小笠かな　存亞
落葉して文好人の庵しめかな　湛道
落葉見ての松風さらさら手　士詠

ぬるくや落葉掻よせ寸庭楓の上　仝

去年春頃ハ人の花見る落葉かな　嵐 蕉雪

笹をも挽て吹よせれ落葉かな　棠兆

貝むしりよこ見てすぐる落葉かな　米艾

其頃の霜さへ有も落葉かな　仝

庭延に手ずから檐の落葉かれ　可都里

落葉して秋の声ある庵かな　居鶴

侘しくて人の業絶る落葉かな　大阜

行人ハ跡にたすらる落葉かな　素卿

吹ぬける落葉心ありけり之　自化

萩藤も落葉にうずもれと　道彦

冬かつらや谷揺邸すらも村落葉　仝

鴬の小とまりたる落葉かな　一菓

野らすのすされも落葉かな　万和

ときわも澗の渚けりて落葉かな　長翁

まさるの折ふして落ちつ落葉かな　齊人

山かつてその住るつく落葉かな　奇渕

志つかや落葉を出ぬける音　立志

あさらえ落葉ハ空を落葉かな　蒼阿

此土と流れもする落葉かな　兼鴎

落葉して衣かけたる垣根かな　小夜

落葉貴てあきらかにも落葉かな　棋老

見限てるの案に来る落葉かな　琢古

落葉して花の木とハ成にけり　代居 文皓

大名ハ花さく木より落葉かな　旅行 参政

葉の道ふさいて落葉かな　一茎

落葉深くれハ人も跪て来れ　来湾

助けしと見れば月の落葉かな　翁 猗凡

下戸なるハ花よけハ手本に又落葉　江戸 来花

ちりくと葉巻鳴る落葉かな　玉枝

畑中ハ掛し色の落葉かな　士朗

清き水もちて流る書の落葉かな　道彦

足叩くつの有や落葉かな　蒼古

掛落葉

銀杏落葉

蔦落葉

木葉

ちるほとにちりても見よ木葉かな　祥禾

云まし畑のさかや蔦木葉　一茶

ちる木葉中にちなれ蔓大事　蝶夢

夜の声木葉分さく村のあり　白雄

まりさは吹ぬ日にある木葉かな　二柳

そのは火のあたりに寿の拾れい　五明

木葉さく竈よるれハ火もさし　鉛尚

牛尾の板畑にめる木葉かな　士朗

木の葉火のへりくる月日かな　巣花

なつかしやの入山の木葉かな　長翠

並ぶ姿の有りなる木葉かな　巣兆

風

ちる木をいとゝ人のやの秋ぞうき　成茂

木をちれいけちぐるしゝ山颪やく　道光

ほゝゝと秋てひさしぶりこの庄や　義之

かけるのさてもゆしやちる木をも　一茶

木をうゝ吉にたのゝ山颪来て　右雄

へるまさしゝやすゝ木をも　出羽 古翠

あゝゝそてこのゝのゝちや野のうち　笠甫

ひりゆけハ変るゝ変るのは　下総女 そのゝ

撫歌のさそいそくらん夜木を　女 志げ

こゝらゝや何に世ゝるゝ嵐の形　義之

風やひゝゝ春ゝ庵　公

風やあれに世ゝるゝ帆ゝ舟　義古

木ゝゝゝやゝゝもゝ雪も吹ちゝ　撫月

風に芦ゝ売ゝゝゝ書木や　晩秋

風に むゝゝれゝるゝたゝ世ゝゝれ　公

風に笠一茶も世ゝゝゝゝゝ　自雄

こゝゝゝやいつゝゝゝれ柴車　公

風れあゝゝゝ松のまさゝや　但馬 凝風

風や弱木ゝゝゝ山嵐人　保吉

風やこれゝも弱ゝ沖の石　尾張 塵雨

風のけさそ地に咲花や　貞吉

風や脚のゝゝゝゝゝゝゝし　九 鉄九

風ふきたつあれ寄　かも　勝石
風にすりゝ　仏の小坂　かも　存亜
風やとゝもむすめ美人は　半入
風れ入りつるゝ　風　合
風ふり合もゝ田つゝ　かも　狂花
風やけさそゝたる池の鴨　士朗
ちらゝとゝも風れ苔の上　合
風や海一さいにある　月　合
半もるも風そゝるゝ　かも　松元
風れゆくやゝ山里あるそゝり　芳義
風や業のゝにつゝむ鴨の鄰　琴六

風れそゝりとあそ八丁のまち　長翠
風にゝるさゝゝるゝ　月　六亀
風れやむ何月のまゝ　かも　伊勢　曲鈴
風やゝもゝふれにゝるの華　巣池
風の止陰乃ゝり松の風　左琴
風れ人もゝ木に移るゝの気　成英
風や沖の鴨のゝ一ゝれ　上雪
風やゝるもゝゝて人まゝゝ　百孔窓
風やゝ山へ家ゝゝれ山の角　柳英
風を金沉にゝゝたる業湯　子共
風やゝのゝまて陸の景ゝ　月化

東郷
無弦
等老
自展
無限
一茶
寒松
空雄
柳子
漫く
蟹子

冬木立

凩や鰯の魚のみ竹册り氷　女房 柞枝

凩に洗ひあけたる響かな　嵯峨 曙史

きしるに笑をもらしてや冬木立　尋之お

二本に貸屋一軒冬木立　仝

冬木立月骨髄に入夜かな　几董

人さみし一本二本や冬木立　士朗

蹴の柄をさしに伸して冬木立　業兆

朝風や荒れよる冬木立　汲古

三日月にさはる影ふし冬木立　女 雨柳

生れしも子の小庭や冬木立　錦川日

高ハ三丸池へとりかり冬木立　蕉白

冬枯

鳶鳴やとりかしたる冬木立　桂也

捨られた寺の庭てもなし冬木立　二斎人

見明ハまてもつれなし冬木立　漫て

灯も時ハ木ハなし冬木立　几佗

冬木立犢多ゟ垣根の腥さ　摂津 蕪兄

吉川の流あらはし冬木立　峯芝

冬枯や壁の崩れに月の夜　存亜

冬枯て鳥もとまらぬ気かな　士朗

冬枯や板戸にしらむ朝月夜　仝

冬枯やひなたふはれしたる山の形　乙周

冬枯て鶴の眠をまたく芒かな　擇也

冬枯の京に芝みや葉の烟
冬枯の関に押やるなれ
冬枯や森も路も烟の中
冬枯や山の才からの芝
冬枯や江戸に西ふるの城
冬枯や井の底ためる底ハ
冬枯や井に流るる芝の葉
小冬の冬枯ゆるるかな　山れ
冬枯やすなもしだるの松に芝　流れ
冬枯や芝て水川の色ゆる　東路
冬枯て暮も芝もうるうる　芝は中来

公　一柳
昔之　士郎
一芝
道麦
京人
漫々
秋夫

冬枯

枯柳

枯〳〵て冬忘する八重葉
冬枯や世義も捨て為る小屋
冬枯を庭のめぐりたる葉計
枯〳〵て身を枯のりる布ハ
枯柳て冬ゑたれたるのるる
鶯を待〳〵ハ待られ　柳
ふるやもて横も柳　枯柳
枯〳〵やこの咲の枯　柳
冬ゑれハ漁村の柳枯にる
旅人ハ冬いるる　枯柳
冬枯ゑにうつれハ冬りる

梅岡　伊堂
道麦　玄米
芝　蓼古
晩秋　白桃
源俳　盛青
士郎　柳屋
月庵

枯柏

枯芦

枯柏蓑衣のかれ〴〵なり　　三清人
枯柏ゐさゝも来て啼ゐる烏　　双湖
枯はむらさき残して枯る柏かな　　京 斗文亭
色はよそかれも枯るかれりしは　　道光
ちりながら又あたゝ宿りする柏かな　　右楼
子ら鳴川淵の芦枯にけり　　櫻史
枯る芦と枯ても月の芦かな　　美二
枯すゝき月にてほのしら芦　　恒丸
人になりしよ見えなり枯芦　　一草
捨舟し見えはへかれすゝき　　麦迪
枯れたる芦のほとりや天の川　　雄淵

枯尾花

たてほこ力のくゆる芦かれ　　松江
狗尾のまなこも見るすゝきかな　　挽巳
夜の風芦ほそくてなりにけり　　士嶋
代牧者の十寸穂の芦枯にけり　　陸奥 瓜旋
柴刈の鎌にさはるや枯尾花　　夢〻茶
子をまち放の仮名ならず枯尾花　　今
中にも枯ほとく水ぬ枯尾花　　暁意
斧火の燧の中に枯尾花　　岱青
漣やなれもすそ枯尾花
宗もなく枕のさかれ枯尾花　　書阿
枯尾花波のりゝられなりけり　　斗入

松尾の口ずさみとして詠たり

松尾の寺にたゝ火の去つゝ

松を吹氣腦の秋

きえ残て人の恋しさ

うゝくと炉の火ぬくし松尾の

雪つもる山ぢ寒し松尾の

雪の山ぢ寒し松尾の

さまゝの仏たゝ松尾の

うつうつ人もかゝる松尾の

ちるさくらそれ松尾の

尾の松てちられて人の見つゝ

公　松花
張仁　士的
冥々　蛍雪
岳猛　月花
道光　公
鞠風

松山の花ちさし出て松尾の

二月にあふ人ゝ松尾の

一夕に松色の来る尾ふる風

海山の風に松たつる尾ふる

雪ちやすに立ち松尾の

村白のそる時にてく松尾の

とゝに月夜ゝ松尾の

人々のつれそれ空し松尾の

松尾の岸上るゝと速立て

旅をゝと眠につゝたち松尾の

きれもさてふれそゝや松尾の

麦閑
公
蕉白
卓池
映象
陽子
素也
吳走
孤山
女
演藻
遠松

毛芦

[illegible]

玉光

[illegible]

玉之

伊勢 六郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杭あの[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
杭あり[illegible]月に[illegible]れ[illegible]山の[illegible]
杭あり[illegible]耳う[illegible]に[illegible]の[illegible]る
吹や[illegible]や[illegible]ハ杭[illegible]る江の月や　曼
杭[illegible]や[illegible]ろう吹[illegible]の泉　摂戸　教童人
池[illegible][illegible]つる[illegible]や[illegible]の杭[illegible]る方　文卿
杭く[illegible]や流[illegible]り[illegible][illegible]義の[illegible]　抵古
[illegible]の[illegible]の池に[illegible]杭[illegible]　晃系
杭蓮や[illegible]つ[illegible]杭に[illegible]　卓池
[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ありとい[illegible]ハ杭に[illegible]る　湖泉
[illegible]の[illegible]ち[illegible]杭[illegible]る時　江戸　道元
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]に来る事の枕帯　、　蕨輝
みとをゆくや人の教まて枕　唐　高頂
兼枕てあられてしの人のうつ　東丸
枕ゝてのふしの雪に入日あり　一鳴
さるれや鶯のさそふ清底　白梅
手のうつれ書じつる子の白　朱衣
子枕や十の指まるも書うゝ　庭松
考のゆる指さるのそて子枕ぬ　朴土
子枕や居こうるして雪　、　英又
枕辰のさるてみれいるの書　大和　考来
鶯れ人もうゝてやゆるの業　業北

枕　蕨
枕　さる
　　蕨

枕　さる
枕　水

蕨のさるゝれ指まも見をあ　方文
てうゝと君にりのてる枕水　蕨水
ひと越れ人にうゝれて枕水　公
書をうるあるのりふ枕水　江戸　鴻北
めうゝとゝ書りる枕水　蕨書
犬蕨のふゝ赤ぶ枕水　公
換れり活鯉のそく枕水　白梅
ふゝ水枕水のまを人の　公
牛の尾のふいうゝる枕水　蕨方
人通り枕れのふの枕水　公
見もとひより　そるれの枕　上毛　白竹

その里を渭に象る杭の下
を競る杭〳〵杭の〵義お
杭〳〵や杭辺に如もう人屋のお
むつおり〳〵杭や杭の下の泉
川名の洞こ屋〳〵杭のお
辰松う古歌閑ゆる杭の下
杭い杭て京野の長のうるこ
一里ろ〳〵白に遊う杭杭原
佛〳〵や杭杭や杭杭杭杭杭
つる〳〵と帆杭うる杭杭お
酒のうこにゆ〳〵や杭の一里や

保吉
江戸 凡洗
士訪
会
橋屋
業兆
城英
牛仁
夏望
祥永
著之

杭〳〵て杭川うつにうれうう
能の日にあやこうし杭杭お
りうや心氣に杭の入口お
夫氣〳〵そ杭のふうれる
傘杭て元尺て杭杭杭杭杭
名も杭〳〵ぬ小子花咲杭杭お
牛吼て杭の果ハうりうり
吼に出てみるや杭の村花
葉さ〳〵はうりに杭〳〵杭のお
麦餅の賣りにうりぬ杭杭原
白をう杭むや杭の麦りを

序杭
一子
寒〳〵
天芙
月化
道光
晩前
常笠
宝桂
一茶
平角

にかくらの者うる杭のす
ものうちに嫁入の迎る杭をお
つ松もすものもおもしろ杭のお
ものを組もようや杭をたてるを
赤ぶう実のうこちれる杭のお
軍ぶうしてまた貴つ杭のお
思半の宿農れる杭をお
待もるを立るれるのお
代士の仮にれたす杭のお
松枝ハ杭のく果のタ日お
くらみの詩まる所是二本

寛松
斎人
詩老
池中
大名
文角
井河
地蓋
沐心
紀伊
寅
乙二

心葉花

くらのや連名合す末詩賞
さんなや世のうにあるそ
つれくや心葉なりう宿たり
心葉もも二本ハ樓ぬ宗伯お
心葉なや者の養も干ぬ日を
心葉なハちるよりもるを屋ぬ
心葉の蔭に来りお如る
心葉なのさんれかもしやうちれハ
心葉なや代ぬ所の清てある
心葉もも木ちるそ荒たらさお
白のうのさんを答ちりり之

乃楽
下弦
鶴渡
吐月
道意
右地
葉也
書貞
ち之
嘉旅
嘉一
俗ち
月波

帰花

心茅ものゝ光もさうう咲にけり　流水　祇白
寒花咲の芳人見て咲や梅の花　女子代
芳野と咲て見きりくりて　仙蓮　板
片枝はさりてやさしく花くりて　蓮左
名のしれぬ木ハる庭寒梅の　國文
梅ゆいさゝ老木の寒花を　白梅
梅花咲よりしもゝく咲にけり　公
をさなれし寒られうり梅花　江戸　梅人
梅花咲や二月の日の暮　姫丸
くり降のうふりはもくりて花　雲路
梅さゝ花一篠に残しれ　吉川

その日は晴ぬ帰り花　碧六
尼庵に梅さゝ花くりて　成美
梅ゆ咲ゆうくりて花ハる　午仙
ちるけしもやさし時しの梅　素望
梅の木ゆうつくさゝ梅花　麦聚
大くゝ赤ぶくの花くりて　平角
飢夫の捨て酒やくりて　尾金
けさ咲し筑の古ら梅花　笠老
赤るの咲くの花くり梅　斎人
なりくゝ人にさゝれつ梅ゆ　寛松
くり花あゝら撫に咲にける　青園

業平も老にたるおうなりけ
ゆかしく人あるこゝろ折りて
ゆかしきこゝろ人ばかりなり
見出されて枕もとやゆかし
ゆかしきこゝろ花の葉おもあれば河
うらゝ河柳子のこゝろ花
心人ばかり業平の
業平のゆかしきこゝろ
ゆかしきのゆかしきこゝろ
枕花のゆかしきこゝろ
うゆかしきこゝろ花

○廿二

鶯宿
方明
枝長
一惠
長老
之紀
盛定
吾友
素孝
業平
貞佐

八重花

雷の罪の咎やはじ

内侍
一子
万和
盛定
鶯
一柳
孔集
流詠
源古
少年女
なる
武彦
百里

自八重の唐葉候ふてか
花咲てふ調法なる牡丹か　南陽
貴きるのにあるうりの牡丹　唐人
妻おく葉のあるこゝやの牡丹　賢古
ゆうゝかれ猶やさみてたるん　竟古
みたるんかへるのうちうの泉ぬ　大江女子代
もたるんよく咲ちう交錯れ　橘忠
長果さやたうりと咲もの牡丹　素坡
美さみて移るる素たの牡丹　了戸
淑全もつめいの咲ちの牡丹　禅林
もたるんかるるこれ咲ちう　月化
　　唐人

茶花

もたるみ匠よる情の花か　豆麦
もの牡丹人をたのこれ咲ての花　樹唐
葉の花やうもの美ふもの光葉　意秋
葉れ花にたるんの花の辨葉　月雄
ゆゝと葉の木の花の咲ちう　盛吉
葉の花れかの長ちの実て葉　士朔
葉れ花の葉八方月の匂れか　合
葉れ花に茅の蘿ふれ流ちる　張六
葉れ花をうゝて花の活ちう　橘忠
葉れ花人のらぬ匂れか　大阜
花さうさうう花に松ゝや古葉木　道光

菜花に花咲て小さの紅ゐ
菜の芽の下に実をまつ小まゆ
麥の穂のこがくれやなほ未成
麥ばけと作ゆりうの時先
麥苗てつ屋とる村雨か
麥苗て星と小山とうれうり
麥畑やその牧牛の歌うつ
田に麥をまく國へゆけ鳴雁
号菜に麥まく屋か
堤に出て熟柿を食のうう
氣の魂法て記たる鏡もし

麥蒔

冬

堤

魂

尺艾　伊勢
玄蛙　右春
金菜　帝言
春亜
城美
乙二
卓池
芝山
白桃

○卅四

所に入てそのその魂
いかにこ菜のあるもそのそ人
う地の肌に雨雲のよりくれ
死を知て新るうやそのもし
國代氣の人俗ゆ中を
世ゆうれそれやあ乃
きさうに人ハ山あしろ
あしろ世ハ山の六番記
世のもの子にあ人記あ乃
あるに別てつやあ乃
あしろうの柳のあし

但馬
菊舟
麥迪
菊舟
志郷
白桃
麥松
麥古
大江丸
士朗
完来
孟星
一子

冬

堤

魂

水　魚　川よりのぼる松の風　芭蕉
柴　漬　うつすなさし枝に雪を乗せ　越中　為定
巣やそのかのそこ魚の就　乙二
うつすし川や氣よりの風　二世人
柴漬や万那うたるめ者の
うつすのの月てたつやおるく　蓼太
数あるもそれしかの中のつ入れ　加賀　鶴ヶ
よとれよりあるの時の月　凡律
よとれよれ秋作ふ深　蓼太
よとれよれ秋作ふ深の樵の雪　秋谷　二路
狐火を道の柴や夜興引　蕉堂

折芭蕉てるるこするあるかな　道彦
こそ入り月仕やしもうしあるかな　公
月あつにもやる光やあるかな　古卯
光ら代の魚ハしらやあるかな　漫く
周の夜ハ女光あるかな　山柴
松ケもも〳〵老めあるかな　丈石
うそ光人の月やあるかな　抱已
折〳〵ハ芋てもうるあるかな　花叔
世の中へうろを見るあるかな　子周
大義のるるうそあるかな　子容
や机のかに冬うあるかな　牛園
　　孔雀
　　之考

柳花苑
寄し水
合

女子代
蔓草
號を
合

白旋
毛頭
孔雀
保吉

貸書
不明
合

踏石
抱九
合

鶴道
湖江
土鈴
合

橋屋

[illegible]
月ゝや栄のうちよりれ丈よる
入れに流れ時すくるわ
よるる時黄や耳に入れの黄
見高一芝を見れいをよる
時よるるそうやを一四を貴し
面鏡を流れにされるよるる
松系やうに流れてうくちより
鶯うるてうくちめうちりわ
新年のすけをさるふ夜御
川よる牛の喰をのうるり

公
出翠
玉筆
道隆
年六
鶯語
業成
業光
公
城英
公

流のよるるのよるるとぶれり
よるる時て山雄のうちりわ
打ゝやうに打ちをりねよる
むつりーやよるる年の三形氣
人に年のをやりのうを年こよる時
も三月打角あるへ流よる
よるるに八鶯の末の年のうりつる
鶯鶯も二三度行るよるわ
時よるる打ふ八年の風信うし
入ちる時ん海と河ちり
海行のよるる時年と茅野る

可報星
公
菊三
一子
平角
乙二
道光
公
月氣
公
公

夜に入月見てまた風ふきたり
小夜ふかるる蟲の聲ふかまる風
覺ハ海ちかしやいかなるとり
あつまよハやるとおもふ
曙や田に飛出てうくひす
起るうらハそうしてなきたり
おもふるたつやあれハ言刀の光
京洛の流もて来てなるる
ちる ハ 雪 ちり 明 影
明るやあつまの戸ふる海よる
恋ふるも抓ふる明ふ小夜ふる

養机
八坊
蛇義
天文
素樂
月化
雪橋
梅園
雪笠
曰人
斎人

たいさうの風海をこえて物ふ
夜のうしお風にそうれるる
江の抓をふけてゆくふる
月抓にふるるうくひす夜の白
夜風くのふるるにわれる抓ふ
菜刀に世を見てて孤ふる
ふ郭や笠のとるる海ふる
田の畔に一ふくまるぶふる
松風を鳴ふに起れふるわ
孤ふるあもむそうしも見ふ
浦姻や作ふれて鳴ふる

寒松
養ふ
蕉白
渡物
少汝
幽晴
狀象
漫〻
女志字
一華
素既

立隙を吹分れて明るき
月にさへ光を交し流るる
波つれてりけるの清らか
なる声の響てりけるかの
声の響を尋て明るき小夜ふる
心すもあるるきりあり小夜ふる
氣あるも強にさはる不明るふる
ふるるまも又ふりふり山の白
叢たゝハ流のふるふふも乗る
河上の大根東流れるるわ
以先のゆくてふくふる

恵鏡
編之
河量
東高
能北 其城
地雲
頑高
左文
右都
賀洪石
尾張
宣光

○卅九

しくしくして芙蓉のちり残りる
山の雪を産千ふるのあるの上
やたふるるふの雲たるあり丈し
ふつるてふるるるあるかとおにふ
ふるるるしふふまて井の日氣か
れ月雪にしふふれふるれふるわ
流立の眺にハ流くしの松ふる
ふるふふいれふ名之流の上
松松ふりふふふふるるわ
流しさを投ふふるるゆ之へ
傾城の名ふふける不明るふる

能ふ 可十
魯曜
表摸 石手
又貢
代房 自業
伊豆 米宝
偽名 桃園
京 樹有
女九 ふ
菊麻
古翼

鴨

鴨

[illegible]の松に尺蓮て鳴くなり　陸奥　古乙

豆花さたく火の[illegible]鳴くなり　仙雨

あり[illegible]や鴨[illegible]

[illegible]　古節

[illegible]　合

[illegible]て月に流むあらいつり　周文

鴨い[illegible]　樗堂

[illegible]　乙二

[illegible]　掛戸

[illegible]　起淡

[illegible]　晃雲

鴨[illegible]　蕪村

鴨[illegible]　白雄

鴨[illegible]の月わさし　策夫

鴨の[illegible]　菊明

月の[illegible]　樗堂

[illegible]　光直

鴨[illegible]　蒙兆

[illegible]の人の鴨に[illegible]　秋英

[illegible]人て一本傘や鴨の[illegible]　合

鴨[illegible]や[illegible]　祥東

[illegible]風や[illegible]　可[illegible]

[illegible]　逸光

月の[illegible]　乙二

[illegible]れたりてや野の[illegible]
[illegible]ハこちたくあれ池の野
[illegible]こく野より[illegible]
[illegible]や杉のうちなる野の[illegible]
[illegible]を小[illegible]る池の野
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
野[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
野[illegible]や杉[illegible]池の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]た[illegible]の面[illegible]野の[illegible]
野[illegible]山の[illegible]

公

寄閑

寛松

卓池

漫〻

柳門

阿曇

雑順

[illegible]

城陵

悠平

[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
柳[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

紀明參

小明ゐるとそしさわ　都　ゐる
ゐるゐるやを流るゝ小明わ
見るさもも法のものの小明わ
月星をうけてたゆる小明や
紀明やうゐるゝ流るゝもの上
もるゝやゝ一首切ゝ痩男
望るて古ゝ仕さを見ゝ方
もるれ書うとむうもう
きだれてゝ誠仕さゝの中
もうゐや焼閑てゝ岩のうゝ
もゐゐ一首ゐられて表もれ

遊素　白塘　焼白　ゐ崖　樓屯　白雄　巻物　保吉　公　素丸　大江丸

礫ゝてもゝ遊ゝ人のゝ小
美義根てゐしたゐわいゝ巻の素
もゐゐもゐるもた新いゝ山の池
もゐれ打のれ八もゝれゐ打
山れの押ゝつゐるたもゝ二ツ
ゐれもゝ月ゐゐる就わ
もの恋ゐれゐゝゝ美れゐる
美ゝゝ美ゝ抜ゝ巻のもゝ
もゐれゐゝれゐゐ不紀ゐもけ
もゐの四ゝ素ゐゝ礫之
もゐゐゝれ巻菊のもの素

陳葵　雲弓　姫丸　樓屯　月丸　尺笑　宴ゝ　武陵　ゐ人　陳岐　義樹　何頼　女陳礫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]や[illegible]二月

[illegible]や[illegible]

[illegible]の[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

松枝にかゝれもいれすゝそさい　成矢
弥にむさて迎ろう柳のゝそさい　丈吉
鶯急もさかりくるゝそさい　連勝
木の芽の時と来るゝやみそさい　道竜
大ぶれるうれ出合ろうみそさい　月化
手鞠ちとしてもいら寄る　一葉
みそさいこけるさまれてみたろう　雪笠
れたれいさ考いさそゝそさい　木海
ゝそさい大傷兄よつて来し　麦苗
果を考れい拝れに来るゝそれに　亦人
松さんさまれて来るゝそさい　柳僕

ゝけいゝそ来るゝゝまゝそさい　万和
ゝれてもふるつけ来れゝそさい　枝長
丈ゝゝ炭を売ゝそゝそさい　米麦
ゝそさい恋や一尺よおす　鶯花
ゝ〳〵の菜売ゝゝれゝそさい　金悦
小坊主のゝそむゝそゝそさい　女き代
ゝゝ坊や垣ゝれゝゝそゝそさい　宇坊
二度ゝれいゝれて来るゝゝそさい　作恋花　元之
ゝつぶやれの松ゝのゝそさい　古民
ちさんのゝそのゝ〳〵ゝゝそさい　晴二
ゝそゝゝゝのゝゝるゝゝそゝそさい　句仮　石義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶴　蕉

鶴蕉や子の子屢とる死ん　子規

亦火燒

亦火燒や赤もやりくそろ長　一茶

枯れたるやうな沸くや井の底　一茶

吹革条

笹蓋に義の船治やも多か　陽子

厳様の左刀うつ吹革主や　和山

多るりや吹革の蔭〻猿蓋　月兎

子　条

子条や弟代の前の飯蓋　道彦

子条に子ぐれん掛け松の指　不知哉

子燒人

敷風や焚ん麦の吹れり　九葉

弟　樂

ずとりと整う行れ弟主れ　二柳

貴弟主や押ゑ気方る笛い音
歯のすりとりて先たる弟主る
ず源に条のるくるるるれ
吉郎吉い敷うゑ笹弟　主
世るるるる埃の西や笹弟　主
素に長光れあれり笹弟主
学る関て先やて笹弟　主
元也長　元也長や元元元

花に素古言に恋あり詠ひ
木のもの坊主のうつや詠ひ　仝
雪ふる夜も有り詠ひ　仝
奴猫のおれまたちひ　蔓吉
ちちひとハ女一の恋路や　蛍言
先方から初め　仝
川添や木履はたらる詠ひ　樗良
恋さしれひ　詠ひ　幸ひたちひ
詠ひ　老の力のあるけ　白燈
仁言ぶ奥女のひをたちひ　仝
詠ふ分ふつれて出ふり来る恋　書蔵
　　保吉
　　大江丸

知ふ人ふ時ふ詠ふ　仝
詠ひ　梅ある　ひを大旦那　歌
詠ひ　西ふ　ふ　ふ　

大師諱
傳仏年
壽

孔雀
平等
宝殿
東有
讀賢
巨山
石尤
寶殿
寄殿
道場
天法
壇平
一方
周迄
殿壇

壇場
自地
宗源
保吉
合
殿壇
半入
垣地
業地
殿天
著之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪の夜や天の河まで雪の降る

[illegible]の雪や雪七夕

孤の雪雪物を出[illegible]

色角の雪のうしろと雪夜や

抜蓮を叩くに[illegible]の雪

すんすんと雪ふる夜の松

鶴[illegible]り起て[illegible]る雪の氣

雪の夜の二万[illegible]り物か

月の夜[illegible]雪夜か

紅[illegible]雪の雪

[illegible]雪夜か

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白梅
美業
九華
公
感書
勝石
る孤
大江
存亜
恒九
公

紙谷
吉川
帝言
丈左
士朝
擔生
公
子筆
公
業兆
挂水

女星作
城英
合
丘
五
五
星
者之
居
城
南山
長
道

陸奥

積る雪は蓬ふの
逸雪にて口ゐる雪は
はやくもたかまりて雪の人
立ぬれハ春は結るや雪の市
白雪やよ里の濃にしゆく
雪の宿永長をいとなうる
雪まれの花あり今国の井
白雪の降つもる世や
大名にうもてもてる城の雪
世をそハいと人雪のつ
雪の日やゆしく家のあ雪れ

夏売に降ゆ雪の
雪の人ぞるれ降をれ結ん
ずの人まて尺ぬ雪の雪や屋の雪
ぞ降の白雪ぞ雪れ屋れ
雪好といへハ栄翠れ閑ぞ
ふれハ到ゆ雪の廉
山人の雪れ肩れ雪栄や
ありるぞ雪の降世や鶴の雪
屋の雪に対ぞ人も来れ
雪の鶴ふゆ高ぬいて尺ぞ
ゆ起て立雪ふ小若雪をく

合
月花
養机
尺足
月紀
麦墨
平角
樹豊
梶義
鶴四
長高

ひつつ〜忘るゝ雪の朶
拔捨て尺れば迫雪の簑
そそ人の雪や小雪のさゝる
迫たて〜松まてやん雪の雪
雪白し〜もゝ〜を折れ光を重
ねかゝりし浮世へはまて雪の反
玄そその子離ゆゝり雪の右
月の雪月あるゝと吹うゝぬ
白ぬやその忘する雪の中
雪ハよゝそのゝ木の井の氣
魚素氏そゝ迫ゝり雪の門

雪笠　雪花　寒松　蕉白　井泉　斎人　今　其堂　秋峯　卓氏　漫し

海山ハ幸〜ゝ雪の手
あゝゝも兵ゝ雪の小氣か
人ゝて拔捨れ雪の氣ゝ
子氏戸や貴史氏ゝ雪の丈
雪ハ幸〜人に恥ゝて改ゝゝ
氣雪の雪ゝゝ雪の改
尺あゝ幸や人ゝ氣を雪の人
雪の者ゝゝれる雪ゝゝ
南天の実ゝ雪ゝ雪のふるゝ
雪のゝや論ゝ比ゝる氣ゝゝ
尺雪〜ゝ氏ハ人ゝ雪の反

高頂　扶葉　双湖　流湖　大高　木老　尾張　菊村　紫湖　文遠　阿元　安義　寒月

[illegible]

人に来てとくさくさの人
雪に来ハ打振舞ん雪の人
華とれハ乗ハ乗ハ乗ハ
雪のうや打ん乗ハ乗ハ人の
花をハ爲ハ乗ハ二ハ
都よてうとあ雪のするハ
くはうり乗ハ乗ハ雪とる
ひあや雪の旦の雲ハ
木のをふる雪ハ乗ハ

[illegible] 和哥
東翁
湛園
尾張 亮意
女 文夜
摘戸 乗来
後の石雄
女 南麻
伝吉
大伴
飛球

[illegible]

雪の雪ハ世のをとくしハ
雪の雪打ん乗ハ乗ハ
乗ハ乗ハ乗ハ乗ハ
四方ハ乗ハ雪の旦ハ
五月やうしつれハ月と雪
さやさや二度雪の夜ハ
むく起ハ雪ハ雪ハ乗ハ
月白つ月ハ雪の月ハ山や
雪の乗ハ月ハ雪の月
南土の乗ハ乗ハ雪の雪

土詞
華洛
城英
岳舘
麦梨
光印
大芳
菊也
白考
扇景
南溟

夕雪

雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九董
白龍
書蕣
麦蕣
保吉
大江九
姫九
玉笹
来次
伊勢
長翠
桃英

[illegible]

年仏
蕣成
可新里
合
合
魯源
斎人
柳僕
漫〻
護為
紀伊
有次

[illegible]

月前雪

雪の朱　月に雪の武士

月雪の物を[illegible]風情や

月に雪の折[illegible]仲の気

月雪やうつも未の生を[illegible]集め

月雪も松の[illegible]雪より[illegible]

月折[illegible]ある雪の淋やや

月雪の来たり[illegible]の小松や

つも雪のよにやそうき月夜や

月の[illegible]月夜[illegible]雪の上

陸奥国　虎伊達　子風

白国

士の

瓜

麦郷

桂堂

万和

義白

志宇

前玉

水

雪

大やうに月のいつやゆき山

月雪[illegible]りふまもりの[illegible]

雪[illegible]て[illegible]月の末方や

月雪の淋あり[illegible]月夜や

雪[illegible]人ふせ[illegible]搆をなして

月雪の雪[illegible]ふる[illegible]

[illegible]ふる一日淋ぶ雪の[illegible]

松風を押へつる淋雪や

大雪や[illegible]人通る角力元

雪に雪又一尺のうるめ　や

義[illegible]に人[illegible]淋雪や

[illegible]　尾張　牛来

[illegible]　紅陽

文[illegible]

[illegible]

[illegible]

白[illegible]

恒丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山雪

大雪やわが心にふれて子規

大雪のよし雪ふる日ゆゑ

深雪のひえひえとも都人

大雪やたれかたのもしき歌の良

雪つむや高のぞきたる

有名とうの素てふ深雪かな　たれ

つりくて雪くれん拾わ　拾ア

山里の心ひらけよ深雪　拾は

つむ雪のあるかぎりこれ山ゆれ　業ゆ

うわくと降ふる雪の山ゆれ　下弦

ふれかれの拾はれ雪ふる山田わ　蔦の

雪の石　俳諧　寒九　寒九

野秀

定雄

木曲

孤山

○六十二

山人のいへる机雪そ降れくる

山陰やひを抱たる雪の京

走山の雪ふて年年傘の雪

雪定れ雪の走山尺ふり

さいつても雪ハ降之夏　山赤

降雪の深山樵ハ言くあれ

百ひの雪走雪の山赤わ

走山の額ろうるわ雪の元

雪ふれ降へうるむ雪の山

大やうれ雪のふり元山赤わ

雪の山越ろんれるれハたる

鐵船　斗入　雪感　士的　公　乙二　尊源　日人　誉笠　陽子　武陵

雪ふりつもれるもあれかこそ山の色
紅葉すやあらしの雲の上
ゆふあらしやうつれる雲の山
むらさきふや岡の炉煙の山
雪をもつ風流の峰の松
村雨のうつるも雲の高根かな
谷　苔底や世をあきらめの雲
林　雨ふりつゝ出て来る雲の林かな
野　雨ふりて八重むぐらの雲
芒穂をうす紅に人の雲
むの色ちりくゝ雲のちゝかな

東高
松白
子崖
史子
惟平
二種
路吟
雅風
多碌
乙二
柳夫

原　雲
川にむかひ消こゆれつ雲の原
原原八ちゝ捷して雲の原
ちゝれ原八乃あり雲の原
人ひり立て野に入雲の原
河　雲
河つゝを押へて雲の流れかな
ちゝれにふるやにゝ河の雲
むさゝこに移る世八年し河の雲
浦　雲
物のちり美ゝり雲の浦澤
磯流や引ゝこゝ求食雲の浦
海原ゝ酒に臥の雲と焼
ひかりと落雲ふる見蘆の雲

素海
重厚
不雪
養乃
乙周
安西
尚山
也有
周文
蕉村
保吉

霧　雲　城
霧　霧や　海
霧　霧や　玉
霧や　霧の　光
霧　霧り　陳要
川　霧　霧
川　霧の　英
川　霧の川　世　曲　長
川　川　川　川　平
石　霧の　石　霧の　石　霧や　霧　三
星　霧　星　霧や　星　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧
霧　霧　霧　霧　霧　霧　霧

〇六十五

〃 兎　　湖中作風　芭村

〃 吹　　枝多　保吉

〃 虎　　紀伊　浦丸

〃 皆　　白雄

〃 車　　書奇　順丸　青人

〃 垣　　淺筋　直日子　歌

〃 年　　年六　芭村　合

〃 氷　　百月　白雄　合　書蘿　保吉　盛書

凡打の木を引よるこゝろは
大きの茶はたうし哉
石に中あり元来哉て薄る枝
赤有ハ哉をつるまあらし
梅の咲まりもあらう事哉
木の葉飛凡や哉新の白
子の戸や小田の哉れまり
五ちのしうもあれ雨哉
こゝろくと赤野のよごれ哉
梅の実花ゝる比之雪哉
ひゑゝ赤野の餅を哉

茶兆
合
運命
成英
合
完来
屋敷
冥〻
道意
美机
寿閑

りあるハりて哉
哉ゝ人月にくるまのそる
遠れこゝを赤野のこゝる哉
所のすゝりく哉 哉
涼白のこゝて哉る木乃和
落哉や五の下の屋うし
寄うこゝを哉む哉
まゝまけん瓶より投る哉
歌詠や哉れうこゝ米俵
たくまして変たも哉う事哉
貝売のうつれ哉

産人
白頭
古郷
流水
守之
延志
秋水
箕笠
星唐
拂唐
文雪

氷
星
氷
花

池にうゑてあるる氷花　大和　林糸
石の底の氷鏡に写る月　陸奥　佐橋
不中や未くハたひらに氷る　竟松
数の子のやうに星氷る　都雀
湯あがりにつまさきさゝる霜　下総　胡国
氷雪て小入りのつちくれ　竟古
氷雪の出羽の国は雪花　吐月　歌
いく筋も月氷る氷花　紅羽
結成てゆたる新の氷花　不寒
新の雪氷花雖ゝる氷日　月化
井樽の氷花とうりぬ籠の中　竟人

竟氷
滝氷

滝
冴

滝冴
冴

竟松　伊勢　枝蓋
樊立て銀井戸底ゆ氷花　伊勢　枝蓋
枝垂の底ゆ氷花　月義
葱賞に冴ゆ不凍て滝氷　月窓
山ふゝ云月凍て滝氷る　南湯
氷れて滝くれ新しの滝　大和　左金
冴冴不為の冴いの底の木　信濃　樹雨
冴る冴れ冴えそえ新る　女九々
滝冴る枝や嵐さへ冴る　信濃　善林
松井に冴ゆて滝とつゆ冴り　筑前　再可
桑も冴る冴ハ凍ぬ樹ゆ　月雄

霊実

夏草の深くうもれて埋れ
ぬ深てうもれて雪の下か
な 保吉
秋深に押あけ芋子の小葉か
深る秋や一茎つの凡の寸
木も草も枯て深や秋の暮 護物
古沈に芋殿沈て実か 太郎
巻の実に成られる実か 掬水
ロもとくこそれわくこそ女るか 芝村
こそくや魚の骨に育か 蕪村
人くといふ点わくを実る 保吉
こそくや雪にあれたる小巻か 実の
道元

霊散

死なある海老か実の名残か
さくくと葉よりや実の小豆粥 蕪笠
実ふり巻のおそれやちる 寒松
巻りや実流るるの良 夏草
あくこれ義の巻ふる実 光雄
巻汁もそのやたんす実 鱗〻
巻る一刀こそ凡に遠れる 長秀
巻ハ画にうかもすを実る 古節
巻実くくの色遠実か 柳元
玉実脱落の乗火にすりを 覚実
その後月位凡あくれふる 公
未巻
巻笠
実松
夏草
光雄
鱗〻
長秀
古節
柳元
覚実
公

一夫より矢猪の居る霧か
玉霧深毋う鴻を乱さうう
関の戸や霧とけう孫の上
為美不霧真すう移れ
小秋霧雲ハ霧れて消りの
鶺鴒の尾にやうれか霧か
きしくと毋の底ある霧か
玉霧さて寄ぬうる毋立か
消たれて忘すあうれか
ケうれハ何毋ふうす霧か
こ尾さよのうたしふる霧か

蕪村
公
園丘
白雄
保吉
戸梅人
士訓
公
子共
一茶
乙二

為うしてかりうけ霧か
霧ふる雪のうやこハ尾さ
筋毋う巻を玉尾うる霧か
鶏ん毋尾ハうのくるものれ
きしくの消やうもうを霧か
玉霧雲の小雨も連て来ぬ
ケうくうう毋為てり霧か
れうれと木立を下る霧か
松をて霧てうる地うれ
たくうれうく消霧ふか玉霧
豆売をたくうや行うう消霧

公
道堯
玉迪
日人
白化
一茶
夢之
霧人
雄閑
梅子
文角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

手り嗅はとう美し女郎　みな　竹園
牧蕉さん人に嗅ぎたく為　近江　雲洲
下駄等ら解ずゝ美嗅　美吉
美嗅れ屋つるれされ人嗅ん　凡董
業平八男ろうう美嗅　支國
つれゝ代子孫も見ず美嗅　掬月
横一本折てらも美気　花樓

雞卵酒

ちゝと刻書さまま子酒　松董
よん手の子ぬ子ぬ子酒　十丈
生姜酒　京
さ手の樂ぬ手ぬ子酒　蘆洲
蒼麦湯　芭蕉
手の菜折ろうゆ

脚

孤や世ぬ歳のひうを　素路
あゝ君に氣てきの上　大江丸
毛付や氣てしこむ　保吉

腎

蒲ぬ折ぬ八雲や毛ぬ　江戸　心川

霜やけ

手ぬ毫や毛ぬ毫ゆ横の上に　不知菜

水漬

ゝ氣京ハ毫ゝ　みな　東路

操

横ゝ横の氣に毫光　白雄

手代や手ぬ横ゝ氣に生ゝ　女子代

手代

手代ハ冬ぬつゝ光ゝ　公

手代や歳の学毫花咲ぬ　芭村

手代や横に白ぬの氣ハ毛　美吉

多化の葉を吟ぶ者もあるべし
多化や[illegible]と咲てあれば
多化やされば[illegible]つ秋光
多化ハ葉[illegible]
多化ハ一葉も尺もあ第ハ
多化や大仕合のかりくす
多化ハ[illegible]
[illegible]咲て[illegible]
多化や[illegible]
多化や[illegible]上下の章をふり
多化をるの吟[illegible]

於る
春亜
道濃
春年
一子
一葉
爽松
亦人
菊也
雨考
書[illegible]

多化の力ハ
多化や風の[illegible]書の[illegible]
多化を[illegible]
多化の[illegible]
多化の骨[illegible]
菊ハいろ〳〵の名の[illegible]
菊や[illegible]
菊や風[illegible]
葉化[illegible]
葉や[illegible]
葉や[illegible]

女廣〳〵

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]に接ふれば[illegible]
[illegible]葉の力を入て咲にけり　　撫子　表紙

石蕗花　咲へぬる村のそとてあるをつたの色
[illegible]の月のひかりやつたの葉
梅めそてつは咲窓のメロ
[illegible]つたる冷清の過ぎつたる
[illegible]花　[illegible]
[illegible]実のひふるかつたる花
[illegible]のつくたいかりつたる花

[illegible]咲梅　[illegible]咲の梅[illegible]　　陳葉　[illegible]
[illegible]長しと思て咲や梅の花　　幾ち　重葉　[illegible]

[illegible]と梅と来て[illegible]の中　　[illegible]氣
[illegible]梅不[illegible]をむ[illegible]　　[illegible]花
[illegible]の梅[illegible]ふやちりぬる[illegible]の上　　[illegible]村
梅一輪[illegible]　　[illegible]
[illegible]の梅[illegible]や蓋を[illegible]　　[illegible]
[illegible]花[illegible]　　[illegible]
咲[illegible]て[illegible]の梅　　[illegible]
[illegible]て[illegible]の梅　　[illegible]
[illegible]の[illegible]の花　　[illegible]
[illegible]の梅を[illegible]の梅　　[illegible]
[illegible]の梅　　[illegible]

ちられずさかりあるかの梅　馬原
世の人をそしとやそしらぬの梅　指月
さく梅や雪を来てゆるしと　信正　同之
さく梅やちりてちるこの花の上　黄古
さく梅をる折ふしの本老の肘　芭蕉
さく梅を井の前にさくこの家　斗入
さく梅や夜のうち流む女華　宇指
さく梅にうつる鶯のあてさく　蓼鳴
さく梅や夜の京なる小性達　武秀　可笑
ふるれこれさく梅とふる桑の先　安月　斗白
猟夫も咲て居ゆゑ花ゆゑ　常陸　清来

さく梅

梅

さく梅　さくまれて梅美白に咲にけり　鶯溝
夜ふかれに咲とかの梅わ　弦月
箕生ふるこれてさく梅　菱雄
へつこれに咲ふてるさく梅　孔集
ふるつ咲てふれに於ふる梅　馬雄　海石
さく梅雪をとあふてる度赤し　衛石
片枝ハ正月すこしさく梅　陸奥　也馬
梅　花　月のや梅の花ちるこの上　大江丸
梅　花　花さうるるる月和尚梅ト　京　来也
梅の花や枝ふの千代たつ　老狗
生海嵐　実平のもを上ふるるもれ　多陸

敏

[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙の歯や立ちかたり吟ずる
飯食べぬ人と富士見ぬ人
ふ汁のあるを百年の後
琉人のあるにふく美メヤ
君の代い待ちとふるりふとけ
河豚食のことはさんかの地
紙られてふの網の美ふ
こハいの尾ふしふくふとけ
河豚のつら婦とい本ずふ
さ梅の赤ちるふとけ
待ちにちの月ちれ

存亜
立厚
布糸
業兆
成英
合
一茅
道義
合
等老
養多

虎ふの兵士虎ふ鳥ふ
又十ふてふ飯味ふ
飯赤ふ人のふ
捨られたふ
ふふ世八偽ふ
月ふの人に老ふ飯の飯
飯のふ青ふ
飯ふふ八れふ菓ふ
鉢比赤ふ
飯ふ生ぬふ
ふふにけて

角力丸

一茅
合
天英
寿閑
万池
優海
扶士
来彦
栢翠
玉河
しゅん
舟良

紋　鑢　　錄　　鄉　乾

鑢　　鉦

あんろうれさんたんの八角にてうい
いあり や鉦錄にむまるまるまる
心花一二の徒れ　武蔵　月雄
焼や錄の頃る雲の海　墓村
古代の画のふう鉦ちあ物ちら　焼雲
錄ちくさうれ松雲ちたくられが　長島
叫の清泛ち鄉れ鳴ちう　村之
ちうさけや心ふて見たるむ見　二郎
かう鉦れ腰すう見義ち　等亀
ちう鉦や弟ち夜の雲　墓村
ちう鉦やうう木のけ、鉦ち　公
　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所にてあんかあそれめあるる
右まの古にすくれめ子あるる
人や人をあれめ童の後る
芭蕉中を案ずるに不唐の後る
後る蛙人の雲口うり入
果うくに海人乗たり後る
東より春ハすくれめ子あるる
桃花のつくに保ちり後る
うくまれうくあるよ後る
蛙ハ変乃くらや後る
帰花に寒あるうり後る

寛古
白雄
保古
仝
大江丸
麦雨
年人
石求
後雨
肥後 文蛙
尼素月

芭蕉子の句を後る
世の中を不見に後る
るるけれ子るの花ろう
果子るハ寒して湖に花る
退る花ハ童うし春風
退る花ハ花ハ子るうり子の
力子 桃よりてや唐花力子
教子 のうら風をうるを子
る蕉子 れ子まや月も然ぶ唐より
鶏巣 ろくまれ松秋花つ家の桜
かくまれ巣する伊年い花花巣

摩美 少美子 る
唐像中
芭村
雲谷
丈古
南海
後雨
仝
伊賀 車来
尺直

大根戔

[illegible]大根[illegible]
引[illegible]大根の[illegible]
[illegible]を[illegible]大根戔
大根引て松[illegible]
[illegible]も[illegible]大根
上腐の[illegible]大根引
[illegible]大根引
[illegible]大根引
[illegible]大根引

作法一考

也宵
自雄
凡董
茶美
合
一子
茶汎
道美
一茶
隙在

茗引

大根引茶[illegible]茶て仕舞[illegible]
[illegible]の力係る根[illegible]茗引
松[illegible]茗引[illegible]の[illegible]
[illegible]人の[illegible]茗引
[illegible]て[illegible]茗
[illegible]人[illegible]茗引
[illegible]
[illegible]て罷[illegible]茗[illegible]
[illegible]茶して世[illegible]縣
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]

千茶

茗美
女子代
素梨
竟松
光邦
茶石
美古
白雄
美茶
宵嬰
一美

葱

心の戸や手業けらしき角
葱雲ふて枝末のゆを踏るか　吉百
葱とりに閑に行おすぶくり　芝村
つゆくさを猫ふけたり葱のあ　去的
ゆつる汁ゆもゆかのろつしか　洪紅
小式部ふるふ枝源烟　保吉
人中へ地とふ枝源烟　士朔
葱らしまよのをにろ戸ふ　双樹
花ちよもしろおるりゆる烟　道竟
葱烟ふけて為武猫か　無船
孔子に八ちの表あり幸しが源　庚人

武秀　多治

生姜塚

浅漬　浅漬の歯に逆ふる男か　蕉古
風呂吹　ふふふふやつふ表ふを　去卯
納豆　歌に実ふ風ふ弱ふか　夏雄
入道のふをとふりわ弱ふ汁　芝村
ふふとふやふて雲ふ丈ひり　年仏
人も合器もすり瓜てふて弱ふ汁　道竟
ふふふふ樽ふ表ふ弱ふ汁　自蕉
花ふる梅ふすりやふて弱ふ汁　養之
ふふとふに古実ふるしや江角巻　平角

佛餅黄白粉黄色下

師走

[illegible]師走の書 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

しはすあくるふるさとや米炭木酒の春
月わかも鮮に成るしはすかな　　道堯
花ちらす風に松もしをれけり　　寛松
山里のしはすをつくる梅の人　　寛人
豆売に豆煮るかやはすかな　　夢之
山里につれ舞はすかな　　渡鳥
雪の中に花さかせけり　　旦々
あやめ刈こゝはやはすの子孫　　子陽
元旦や人の子を浦の鶴　　玉之
美歩中に本迎りしをれ　　芳丸
木に残に花のあるはすかな　　大和　歌石
　　花妙　双鳥

しはすに業をさしあしたる庵かな　　嘉陽
魚に酒を世の人に成れり　　玄丸
丁野の上するこゝはすかな　　鶏石
しはすに人よる藻かな　　仝
いそくも月に成はすの帆無哉　　江戸　梅人
鶴なるそのやはすの花白　　長翠
月のあいてをれかはすの日なり　　樽堂
雪ぶさやしはすの海の水　　仝
白雪やしはすの山の鶴　　丈吉
杜の日しはすの入れり　　岸花
鶴鶴正人をしはすかな　　大美

帥走月　車初

九仙

二蝶

八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

然るの女 二の川
越中 長吹
表鴻
保吉
仝
半入
春亜
松兄
士朔
樗堂
仝

仝
業兆
成美
仝
昔三
圭半
乙二
仝
冥々
常盛
仝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

完来
祥永
常陸 雪き
道美
美し
貞化
松江 一鶴
芝村
貞信
名越 波川
芦涯

造
伊勢 芦永
使力
山城 子静
丹美
去来
宛兆
美業
芦涯
晩亮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

任隙

夏〻
古民
半月
芝村
蛍雪
月桂
長翠
城員
吏郷

鞠凡
雪梢
梅僕
白鷺
閑更
仝
芝村
月紀
蛍雪
斗入
井六

小寒

冬籠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬月

常陸　岳翁
江戸　作邨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長すきて小ぶしの
吹流す長ぶもあるべの
外麦ら外〳〵やの
ら眉の月ゐるべの
ら鹿の小走りするの
柳の手ぶしるるべの
ありやうはうやめてゐるべの
蔵の木八曲りやうの
外ぶつゝむかいはりの
ふるまのくるべの
寄めてゐるべの

道灌
寛松
学筌
合
楼臺
養子
斎人
卓池
外安
其臺
且〻

あゝ春を捉て逃べの
すさまじや男の月もの
清ら新のべの
いべのの花ゐるべの
ふべさら捉てべの
雑抱にゆすとゐるの
外にそいめかのべの
べの月ゐる春ら尼ゐ
べの月嵐の上にゐ
光碧木にめゐ
心星やゐるべの

踏花
湖中
流陽
月素
如演藻
古之
指月
外古
能
双葉
菊演
長武

冬　九月

花よりもうつろふかたきもの　芳丸
紫の色ふかきもの　常陸　漢水
見めもうれしき木の葉　横鹿
鶏かのこたるもうつるもの　甲斐　鶏逸
冬の月　江戸　方丸
冬の月名もうすぎのうすさ　江戸　茅船
世をうつりぬ筆のかりやの月　京　蔦吟
あらぬ海にてやされてのの月　備中　晋和
松をうつるや入江の月　亜梁
月をしらぬる夜井の光か　筑前　鶏素
冬月に鶏にうる作　公

小破りて池にに月をうつす
冬月や桂木に中の井之華　芝村
冬月やら孩の光ふ鶏に月あと　白雄
冬月や吹ちられたるもの新　鶏卵
冬月やうらうと接る鶏卵　売
冬月にうつるふるに力　士朗
冬月や鶏をうめる世雑　向角
冬月やうらうと廉の角と角　木僊
冬月や主のさけをを雪色　華洞
冬月や柳ろうにいるうつ机　成美
冬月や月代まで男ふり　万象

楷

きしのやなぎの枝てみ　如泥
大きやハ月ハ楷の月　一茶
きしのやるの子ある沖ハ風　蕉雨
きしのや垂れさがる笹の葉　宇洋
義経天月ハ空にまれなり　車両
きしのや風もさはらぬ枝の新　秀眉
きしのや案山の笠の耳ハ雪　倩
かなとのきをとるとこロかな　挿歌
きしのや投げらるゝ藻塩哉　女哀
人ケきとのかたをとゝ　挿歌
牡丹てらしうり楷ばり　花郎
　　古節
　　晩秋

きしけれ　楷の葉
落燈　楷の実の樹の花　白雄
楷の実やる　楷の樹の花　保古
道中人ケきとのかたをとゝ　存亜
浮世ハ人ハ　楷実ハ　乙因
楷の実の黄ばみ　楷の葉　昭九
松むしにケきとの楷の葉　猿丸
楷つむや梅きおもハ古寺　左京
清の子ハ楷の清る上　楷堂
楷黄て茂ハ敷迄見ハ　公
黄ばみ　楷の楷ハ八九月　業兆
　　一茶

炭

[illegible]

竈

[illegible]

伊勢

[illegible]

炭

[illegible]

一葉
武陵
半古
蕉古
几董
成書
保古
勝石
素堂
卯史
士朗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

炭売

入月に白人ひとり炭売
炭燃団に燃つを作ひより
炭の炎や板の元の紙を焼て
かなへに松風に入炭火か
炭売に焼見きる女か
すゝ炭のこゝしか寒や六月
炭売の笠に丸十之
売くとゝまたひとりすゝ戸口か
炭売て外るゝ金へ戻りけり
めつらし庭を掃のいろれ
はかふりて炭沢山の大海か

流海
東雲
女
湖風
鶏鳴
茜村
美二
乙国
横雲
完来
改二
大江丸

火桶

火桶
囲炉裏

たちしる火鉢る火桶か
ふれめくよりありしを古火桶
猫に変て人に化をゝ火桶か
こゝれみる女の中に火桶か
人ゝれぬ火桶必りて粥たゝん
火桶抱て子に入あしか
おゝゝ人や火桶に泣て年暮
月灰や火桶に埋む菊の花
火桶抱て子に入ぬ下ゝ灰塚
抱ゝ子ゝ灰中や松風相火桶
炭壺の人むつまりゝ火桶か

英人
茜村
合
茜古
月城
九華
二柳
盛吉
秋号
桂水
素機

巨燵

[illegible]
角力とりの素あてる中桶
[illegible]代の月より火桶
[illegible]の素[illegible]
人光てる[illegible]
[illegible]
[illegible]

埋火

長伸て你心ふかくとるつれ　平古
美名ト蘭ト云ふ夢ル渦の元　左節
埋火やつれる夢ル渦の元　蕉村
埋火を見て坂を上る人　几董
埋火を見てしむ雪や埋火周くに寄る　白雄
埋火や寺ふ所ふ所ふ所　公
うつ火やハ名ル寄る集る泉　素龍
埋火や老の人の面りれ　昭九
埋火を見て寄る所り　表丁
埋火に見て寄る月入さ　一茶
埋火やふ所ふ所ふ所　月瓢

巨燵樽

燒炉　蕉雨
陽　勝

埋火しつまりにや松の音　蕉雨
海士ふの埋火ふ所ふ所　卓池
埋火や持ちつつる枕の白　斉人
埋火や居ろ居ろ居ろ居ろ　秋光
埋火や素を見ふ所ふ所　自紅
埋火やもめて業ふ所ふ　蕉雨
埋火や灰の海入る鶴　一雄
埋火やもりふ所ふ所ふ　斉人
埋火を八月迄つそやそ夷　歌吉
後ふ長ふしつる燒炉ル　樽良
燒の紙ふ所ふ所ふ所ふ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
一[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]

蒲　園

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中

ちるまでにあるべきかぎりの
いろ〳〵をつくしたる家や九月中
つゆ〳〵ふるつゆにつゆ〳〵
明るまれいでゝ九月中八月を書
ゆくゝ〳〵吹つゆまぬれつゝん
数文の世界ましたるつゝんか
九月中旬てゝ九月廣ゝ
九月中旬て蛍見やうまるう
孝経をのもてたれ九月中
小日和や木の葉を現る菜の蛍中
花のを雲に乱ゝ九月中

也雪
柳元
芝村
仝
鼓亭
素丸
春亜
楊人
ノ貝
雷人
米竜

走ひに家て見るつゝんか
美濃の鴻雁を流す蛍仕か
華なるの十をつゝる男か
華なるや歌のまて流人か
物書の長ゝ寝ぬもの
ゝゝゝ木を伐ゝ家のもの
地の底に水る入ぬもの
もゝゝ義のゆるやかし
もの家ゝ長ゝて見しかな
ひかりてゝゝ木ゝゝもの
ひゝゝゝすゝゝもの

宇楊
芝村
義子
月秋
士鈴
雲岳
南陽
大呂
楊英
孫石
春亜

月花　寒松　玉鉾　女郎花　九月　菊　月芳　九月　侍従　曙源　寒松　菜也

秀風　木葉　桂月　月花　侍従　紫苑　九重　春雨　踏石　樽雪

冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　河羅
[illegible]　成美
[illegible]　公
[illegible]　柳也
[illegible]　兄直
[illegible]　之顔
[illegible]　吉牛
[illegible]　大阜
[illegible]　化
[illegible]　雪堂
[illegible]　定人

俳　松

[illegible]　宗化
[illegible]　一隊
[illegible]　雲芳
[illegible]　松江
[illegible]　久滅
[illegible]　李天
[illegible]　女濱藻
[illegible]　因幡　雷師
[illegible]　花枝
[illegible]　武蔵　砂川
[illegible]　多磯

[illegible]より法し 梅 延 蓮古
[illegible]も来[illegible]る 時の[illegible] 道堯
[illegible]こ[illegible]こ[illegible]に[illegible]小[illegible]
梅の木も[illegible]て 梅つく小[illegible] 白瓦
[illegible]に来さ[illegible]う 梅[illegible] 子敦
梅花の木法にてこちあ[illegible] 一葉
梅ふやむ[illegible]の[illegible] 公

梅 砧 梅 花 年 貢 逸木樵

[illegible]折 [illegible]てる[illegible]の貢 白玉
[illegible]や小枝も[illegible] 白図
たちも梅[illegible] 芝芳
逸木心[illegible]ハ約の小[illegible] 旭丸
[illegible]成

書 出 梅 花 分

逸[illegible]て家[illegible]
出[illegible]や[illegible]枝[illegible]と出[illegible]る 玄
[illegible]の白[illegible]梅や[illegible]の梅
[illegible]て[illegible]
[illegible]や梅[illegible]見も来[illegible]
[illegible]
[illegible]の沈[illegible]る小[illegible]
逸[illegible]
[illegible]の梅[illegible]見い[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]の[illegible]

梅磨 来之 保吉 斎人 周文 几董 学笠 尊源 斎人 秋古 之及

年越

[illegible]

尼払

[illegible]

枕摔

[illegible]

江戸 鶴舟
兎丞 拉魚
寄閑
英流 茅栗
蕉古
素丸
言古
英作 月麿
蛟美
乙二
秉乳

[illegible]

花季は

[illegible]

柳瓦
蕉古
成美
仝
洋禾
昔之
一子
蕉扇
道竟
一茶
布帛

年月立春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門松立　　関牛
古　屠　　凡董
　　人住むうらめ梅の古こよろ
　　一茶
　　肌うつす梅ゝ咲ゝ
屠　夷　　寒松
　　屠夷見元に白ハ著すなり
　　不鶴
　　乞食ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ
親味噌　　意人
　　親ゝゝ味ゝ酒ゝ
　　蕉古
　　投出ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ
　　橋元
　　いかゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ
　　素凡
　　乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ
　　素蕉
　　うゝゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ
　　大江凡
　　ゝゝゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ

乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　弦月
　　柳葉
乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　素葉
　　意人
乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　雄閑
　　宜麦
乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　梅雨
　　二楼
乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　蕉村
　　方々
乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ乞ゝ　　道元

年つもるものつ雪に白に埋まれり
年暮れ松の葉ふも第に見へぬものの暮
去る迫るやすぐ言ふたりいはれるん
老松や去る迫つぶし葉のかり
初第の葉のうり凡と去る迫ミ
嵐子や去る紛るものの作夜か
去る紛
うつたちの垣するまいかるれな
去るつとふ人るあ寒かか
去るつや類ら赤の葉の口
覚るとるそいそまそまて
るつ去るのあるれるめ板ん

乃改
佐流

丈左
道尭
成英
要戈
武曰
白梅
垣凡
斉人
護曰
秋夫
長老

来る
葉
雪
雪

るつ去の雪とそれり昆布凡流
ゆり葉の葉も去ざれる凡去
去るるるるるるる柳か
来るるしの揺るるん松の凡
葉葉の中に去りり
るるの道ふり垣め葉凡雪
凡成ぬる紛や起れるの雪
年長袋のあるむつるるの雪
るの雪原去るるの凡雪しる
万合の根のるれるるも雪凡り
義りしるるるるるの雪

黄凡
呼牛
可葉
亜梁
光雪
長角
榜凡
麓古
光雪
保吉
斗入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初年

竹うゑにあつかてゝ月をの春
よしをつゝりうりの詩の句
詩賢て梅りもやゝ嫁枝春
りもやゝ月あり月あり天は丁
掃ろろ第やもの月光
りもや孝るに月米ゝ俳
りもに赤とろつ家ゝ
りものこそうもめゝ
もりや雪を江湖に梅枝
りもを春ふも美の字橋
りもの春ゝ梅の春

千歳女 その
地董
蔓古
伝書
春亜
磯石
斗入
士鶴
合

女 星布
橋童

ゝいりゝ水をはる入ゝ
りもや磯人明の春の
りもや家ゝ家ゝ月の
りもの月ゝ春の
りもを水ゝ磯の
りもを吹てゝ梅の
田楽の煮あゝ月そもの
春てりゝやゝ月の
りもや第の先の
りもや小ゝ月の
りもを梅のゝ月ゝ小

成美
午人
橋子 尚平
素楽
斉人
子孫
万国
泳海
春蘆 路宅
秋光
其静

[illegible]の淵[illegible]る歟の杖　陳奏　貞中

[illegible]り[illegible]ましたる[illegible]流の雪　橋磨

[illegible]りの[illegible]入り路の歟か　尾張　[illegible]

[illegible]りの[illegible]雪[illegible]る[illegible]の[illegible]　[illegible]郷

[illegible]りに杖し[illegible]へたる[illegible]の[illegible]　淵翠

[illegible]りの[illegible]おそ[illegible]りの[illegible]の[illegible]歟　陳奏　梅子

[illegible]歟赤[illegible]る[illegible]そ[illegible]き[illegible]の[illegible]　飛騨　東路

大晦日　[illegible]来[illegible]へ[illegible]寄り[illegible]ま[illegible]の歟　存亜

[illegible]ま[illegible]の[illegible]原[illegible]原[illegible]大[illegible]日　年仙

[illegible]ま[illegible]ま[illegible][illegible]む[illegible]大晦日　東高

[illegible]の[illegible]れて[illegible]る[illegible]大[illegible]ま[illegible]　[illegible]

除夜

大[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]年桂

大[illegible]ま[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]民[illegible]流の[illegible]　保吉

除[illegible]の流[illegible]る[illegible]ま[illegible]　[illegible]

[illegible]ま[illegible]て[illegible]凡[illegible]て[illegible]す[illegible]除[illegible]の流　乙二

[illegible]の[illegible]や[illegible]れ[illegible]ま[illegible]　道堯

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]れ[illegible]ま[illegible]て[illegible]　[illegible]

[illegible]り[illegible]や[illegible]れ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]　右雄

[illegible]籌[illegible]も[illegible]ま[illegible]の[illegible]の[illegible]か　素琉

[illegible]ま[illegible]　[illegible]　陳奏　馬年

[illegible]を[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]　[illegible]

[illegible]

人慕六[illegible]の死猫の鳴き[illegible]

[illegible]よりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

附錄人名居　班位不序

山城　如泥鄉　蕪村　闌更　耳考　瓜流　久風　野明
蝶夢　大祇　紅羽　秋烏　共諺　都崔　一山　一瘤
子鳳　為文　芹水　丹芽　車蓋　芦角　几董　一桂
安里　宜甫　來之　吾仲　諸九尼　可樂　方山　琴之☆
紫曉　賈古　荷屋　金毛　鳥和　丈左　春坡　南岳
馬印　麥宇　倭泉尼　嵐月　土髮　定雅　瓜全　蒼虬
雪雄　梅價　百池　芦涯　土卵　空阿　五芳　松蒼
其成　居然　毛舉　月峯　南曉　芦丸　蘭二　應美
嘯山　江蓼　金莱　鶩少　若夢　凡ゝ　馬龍　月更

菅鳥　葛年　桃江　丈石　芙九　栗翁　可南　乙道
十丈　采也　岱李　布雪　草阜　千崖　茂良　杜蓼
守三　暮四　有中　栫江　沙村　霞潮　東裡　路一
漢水　十壺　橘榮　鸞太　貸僕　里殼　萬栖　文雪
子靜　桑居　乙彦　寸我　白蟬　梅居　文芹　共樂
芹坡　烏雪　葵砂　好古　桂肩　百丸
大和　龜水　女千代　濮水　緩駕　左會　杜口　和山
嗽石　憑月　布荻　巴摘　彌山　林糸　卯明　福丸
可亮　可翠　暮來　其杉　拾葉　絨務　墨溪　哥烏
香宿　嘉樂
河内　其鵬　秉紀　月簑　蓬宇　徐菊　氷水　楚山

一翁　嵐來　古光　其桃　南光　沙王　八之　可省
雪丸　竹圃
和泉　喜齋　背笛　魯月
攝津　淡〻　車庸　因之　櫻叟　二栫　大魯　自樂
李友　大江丸　東雲　五趙　春臺　友國　弁六　木僊
百堂　米儿　方水　一草　月居　尺丈　瓜坊　奇淵
長齋　魯隱　三津人　萬和　井眉　桐栖　蜂友　芳中
鵞雪　麥太　岩苔　梅後　吳老　米彦　屋烏　星譜
竺齋　夜來　釣翁　瑞馬　左逸　三百坊　扇暑　松隣
汝川　草僊　祇杖　杉良　素虫　春人　春哉　春思
白涯　二蝶　吾雀　可隆　吾萍　春魯　未徹　左角

天馬　三霞　竹亭　鬼將　東空　巳明　風雪　菊房
月巢　外海（尼）　晩翠　屋馬　東明　亀村　芳鶴　梅烏
水老　史川　士川　吳服　籬峰　里人　唐来　桃葉（女）
花外　秀丸　息石　少齋　一鶴　二鶴　今貫　一馬
五道　嵐谷　松月　蕉里　几仙　嵐亭　冬色（尼）　淺生
壽樂　松子　遲春　染雅　公路　省三　白齋　桃柯
天来　玉叟　紫鳥　柢白　九玉　茶来　五株　春渚
笹町（女）　遲栁（女）　榮（女）　て（女）る　栄（女）
伊賀　朝竹　車来　士得　雲江　猪来　梧鳥　閑竹
一醉
伊勢　樗良　素道　坡仄　杜菱　披長　宗居　宗兩

野梅　五角　左涯　青川　滄波　弘臣　石燕　李石
闌鴉　六龜　羅外　沈木　虎岡　右存　春波　浮石
為貞　馬曹　来汉　景山　杜影　桃波　曲郎　蘿父
閑樵　龍石　他力　鵞溝　花眠　左竹　左濱　佳夕
子得　丘高　官父　渭川　不求　見風　香有　無曲
椿堂　雪仙　含乙　五蓬　寸明　孔阜　淇石　烏翠
椎巳　李東　翠川　如雪　鶴臺　菊所　一路　周終
梅二　杉蓋　宵我　長芽　志完　半古　無牛　丹霞
夙也　巨洲　宵吾　宗古　曲路　昌作　野渡　雲子
尺翠　六外　一木　如山　醉瓢

志摩

尾張

共菩　羽墨　雨栁　曉臺　乜有　巴靜　白圖　盛青　一玲
理玉　辨二　羅城　松兄　士朗　臥央　騏六　天老
桂五　白尾　五雄　帶梅　岳軌　塊翁　快臺　秋麿
大阜　少汝　金谷　梅閒　月底　沙鴟　不轉　鹿野
應汀　墨山　大商　寸々　素外　餘祥　松菊　大巢
平齋　國水　由肆　賈天　菊村　李臺　東陽　足彦
大蘇　硯靜　黄山　昆明　谷臥　水天　永齋　盛雲
水宮　五老　琨古　龍肩　月巢　茂東　鑪亭　閑樹
我竟　宣彦　楚山　逸人　有磯　得芝　青峨　松呂
旭山　阿城　徐英　葛井　葛齋　魯堂　駕風　而后

陸馬　東蹊　白樹　墨樵　秋國　一風　米汁　眠屋
虹陽　杜堂　倭中　沙玉　李叟　可玄　牛来　梁臺
五道　湖風　竹趣　圃曉　栗天　野喬　可竹　路郭
和平　路大　友鳳　遊好　三糸　里山
三河　青牛　浮流　祖風　麥二　水朶　方明　卓池
秋舉　盛呂　楳老　其桃　箕山　東鳴　水芽　白羽
喜春　茶筵　水芳　東雅　流芝　南老　巴洲
遠江　瀾古　百洲　起石　水甫　雪杏　橋夢　吐鳳
駿河　蓼舟　左逸　文武　周竹　里仙　梵阿　馬老
萬古　菅雅　画牛　桃舟　鴈赤　石雅　良盛
甲斐　鳥我　東里　可都里　漫々　嵐外　有斐　蟹守

太年　槌村　重行　漢甫　臺眠　鱒魚　鏡平　草丸
一作　草烏　真恒　作良　山甫　方居　才馬　遠兄
裏山　亞梁　百二　物成　都氣人
伊豆　一瓢　連枝　官嵐　助董　雪髭　米堂　宥已
春成　真砂見
相摸　春鴻　麥水　巴水　澧水　叙来　葛三　玉珂
丈水　雉啄　方解　ヒヒ　石年　洞〻　鳥流　松蘿
乙鷺　文魚　松乙　之道　大曉　雪蹈
武蔵　千尋　屠龍　花候　貞佐　不角　仙鶴　柳居
烏醉　意程　一雲　門瑟　夢太　百明　烏明　柴居
山川　左明　白雄　存義　百里　紗言　得牛　笠扇

雷堂　米仲　玄武　紫玉　柏樓　平砂　吐月　丁濤
梅居　雪左　柳几　樓川　呂曉　秦國　乙河　文闘
敲水　湖風　宗瓢　秋瓜　牛飲　鬼秀　宗瑞　似鳩
素丸　風洗　斑象　野菊　瀬川　全峯　百川　保吉
政二　素菊　鵜口　卷阿　梅人　西羊　棟花　寸来
石嗽　故流　馬十　輕舟　竟平　水奴　雪江　悠心
留屋　菊明　茉莱　春海　照説　以足　可僚　文足
鼠六　六窓　浙江　雪萬　素嶋　春蟻　丿旦　柳也
巣兆　花縣　星市　白麻　莱波　京傳　成美　完来
莎笠　沙羅　蠣潭　岸屋　牛心　田雀丸　白芹　普成
成蹊　東塘　雅磨　萬里　竹丈　衣丁　来帆　百華

道彦　鶯笠　寥松　蕉雨　護物　水海　對山　一峩
其堂　旦〻　頑布　立志　紀逸　宜交　素外　凡雨
文晁　鴉齋　南湖　董堂　蜀尺　素玩　一阿　三化
兼石　心非　壽翁　國村　北元　右雄　双湖　孤山
胡準　一蕙　可磨　詠歸　久藏　巢也　國甫　鷄川
黒駱　竹效　巴江　九朴　蔵煙　萬外　座来　糸年
應〻　沖〻　曲阿　老阿　秋兎　鳩丈　升古　梶市
澤至　芳渕　楷月　菊塢　以兮　濱藻　竹馬　車雨
守静　陶里　玉光　任只　素桃　晴牛　山人　諫甫
山充　豪山　芝山　茶静　宇橋　素樸　碩齋　鷺雪
啟山　梅夫　自来　山松　梅年　南井　文都良　狩無

笠甫　菜山　鈍齋　丈河　鳥路　粗文　暁雨　錦城
野遊　子交　月樵　桑嫁　龜文　南山　南濱　五百丸
高駒　夫山　太良　蓬志　几秋　二川　嵐者　海也
蹄川　巴人　三壽　一雨　明良　有穀　語竹　秋耳
季道　子共　我風　一夢　秀都　吳秀　梅卿　洪岸
素人　梅英　午桂　老鴉　信丸　萬船　雨籟　長閑
乎馬　可笑　金花　敬哉　杢貸　杉枝　江鷲　歸堂
可良久　燕子　東美　禾葉　東雀　稲逸　星高　草芝
吾嬬丸　文園　梅岑　吉雨　一雄　英久　竹邨　米花
玉桂　雨穀　梅枝　岑糸　湖風　杞朗　夷衣　おもな
ちゝ　ちゝ　遊女　江川　白玉　會見　豊岡　瀬川　路考　芦錐

安房　也州　杉長　郁賀　卜鵞　其文　亞然　鳥周
斗白　一盛　素共　平雄　兩蟒　宇明　竹由　東居
柞枝

上總　天府　兩林　林鳥　一醒　輪之　白老　里丸
呼牛　桃支　音八　兩十　葛　五柏
下總　兎石　桃原　灞淩　鳥朝　玉斧　巳蓼　存亞
長翠　きゝ　双樹　恒丸　さと　素龍　肩尺　祇来
兄直　三顧　雪洞　きせ　梅後　青盛　半兎　鞍丸
素迪　鶴老　秋左　柑翠　兩塘　一白　一長　古彦
月蚫　其明　故校　至長　素月　研石　梅暁　蒼峨
桂丸　茶彦　金堤　帷平　李峰　脇水　鴛雛　東騏

之綱　榮松　石鯢　倚風　鱗〻　尚山　幽篁　梅史
普記　汶里　香風　如柳　嵐文　青岐　馬遊　月丘
月芳　成之　猊母　素綾　蓬呂　丘黛　藍山　吳崔
求一　文蘿　松巣　蜑路　蝸崔　玉彩　帛笛　錦哉
可門　その　孔榮　汝南　斗周　月暁　肩月　兎郷
角水　菊明　若雨　素孝　怨柳　燕巴　兎園　牛乳
なる　三止坊　観之

常陸　知廣　浮来　祇徳　車童　遅月　常南　五峯
不脱　阿量　卜甲　湖中　左文　淇水　由之　李尺
有美　文川　雪守　松江　抑暨　三有　杜年　風後
眠石　鬼平　一止　義香　村江　祇三　瓢翠　雲搓

昭眉　知水　九似　知殷　祇鳴　雲翼　隨和　一風
近江　田札　青苛　玦石　冬柱　遐望　都寬　魯江
可風　重厚　邑洲　馬瓢　菊二　青楓　祐昌　賜道
芳之　蜄州　申齋　千嶌　于當　亞溪　烏項　女志宇
繡席　宇洋　可盈　文常　士明　春雄　班車　寵山
栢翠　春坡　洪周　巨洲　蕪巾　三省　筯音　石歳
素律　花陶　松琵　鼃梁　砂文　文山　東明　敵美
元美　茁堂　白民　水友　百枝　蒼人　梅園　仙李
汲波　還古　玉英　梅雄　古猿　素流　里童
美濃　宗志　童平　五筑　楚流　以哉　雲裡　左流
七兩　三伍　箕十　右範　千阿　草人　翹平　丙子

萬朶
飛彈　步雪　遊魚　儲史　平芝
信濃　友梅　鷄山　素因　自得　凉俗　麥二　希言
猿左　柳莊　若翁　如毛　扇枝　素蘖　一茶　若人
雲帶　何丸　壺伯　何賴　六曹　文兆　路人　五什
乙堂　錦江　吐丈　鸞岡　州司　隱市　壯厚　春唄
芦菴　伯先　伯民　可考　田山　玉芝　木鷄　月巢
香都良　可笑　汝蘭　春甫　正阿　柯香　介亭　丈馬
路因　美歌　一之　叢雄　武曰　一考　文路　春耕
素鏡　左皐　意吉　春明
上野　朔宇　眠醉　兎山　三巴　如白　兩什　班雪

素輪　秀和　風狂　麥泉　霞雄　壺半　浦入　鹿太
茅麿　双烏　北尾　雉令　鷄秀　百童　微風　井德
其雲　射毛　笋露　布什　是牛　杵臼　澤雄　六花
訐一　川二　霞龍
下野　素麿　胡國　紫桂　真雯　魚文　兆鉞　道澄
尺樹　其丈　柳起　雄尾　竹丈
陸奥　鬼子　鬼孫　祇川　明之　言左　一至　浣素
芳角　危言　蠶束　青二　緑水　麥羅　至岳　麥刑
長白　北達　露秀　鐵仙　五角　蒼里　吏仙　南陽
三徑　八風　乙因　鷄路　白居　凉秀　露超　巣居
笞菴　南山　乙二　冥〻　素鄉　平角　雄潤　曰人

本授　亞笛　不圖　律大　貞中　如蘭　祖庸　雲呂
吾石　雨考　與入　冥也　布席　百非　大呂　如髮
紫明　樹明　ゆくて　呑溟　巾羅　画鶴　見車　秋夫
北溟　左龍　十竹　世竹　買月　東齋　文郎　萬象
馬年　芙蓉　寛兆　玉之　子孝　董平　守中　襲兄
獨酔　魯冠　都龍　竹路　瓜雄　奥童　数石　深耕
烏秀　文翠　斗水　一鼠　蘿状　等舟　凡烏　魯臺
寸雅　董車　草也　雨舫　天民　青良　燕川　蘇山
蘭臭　夢南　東芽　三及　士由　谷雄　月哉　女代
柳郊　草琚　几隱　俳佛　調雅　寸車　杢枝　長寸
其爪　乙調　玉筍　調琿　左来　卓堂　蓬寸　旦茄

東郡　巨山　桑布　了童　鸞子　文冲　馬今　心阿
岡虎　空明　春魯　梅子　廉〻　尺山　呂蝶　突〻
風虎　柯亭　蘭翠　北鳳　石丈　魚遊　無樂　無底
桐水　澤鵞　瓜碓　南平　菊路　調喜　二蘭　旭水
雄飛　五朗　三里　視月　素来　美都良　秀二　遂山
壺春　無外　一水　文梁　松鳥　海樂　英二　白泉
和鳴　西琵　子容　盧外　汲古　呑鳥　朴鶯　蛙眼
勝丸　一二　維新　李光　昊峯　草玻　乙丸　志順
一柳　一蛾　彦賢　文何　玉息　柯國　橋雨　春儀
白扇　岐山　芳齋　東丸　仞山　星德　沾橋　梅其
太乙　茂　春翠　はゆ　壺り　旭　可遊　當麻

柳　千賀　龜丸　東我
出羽　貞松　洪水　鸞窓　好和　壺中　五明　素風
小野人　五瓢　野松　仙風　渭虹　五貢　壯齋　淋山
祖六　几峯　何蔵　可来　渭翠　峯梅　佐り　有鱗
桃史　丈永　河道　蘭丈　吳石　稲丸　文明　木子
佳水　之女　和友　巴陵　尋風　楓二　仙友　永我
かり　古翠
播磨　山李　梅盧　尚平　青蘿　蝸國　五嶺　布舟
以友　雲關　玉屑　起蝶　脫貧　巴山　野泉　左龍
茶来　和三　一曉　周泉　桃岐　其圭　春宥　田實
龜仙　丈鄉

美作　梅府　櫻左　朝竹　藝木　得山　月磨　龜年
備前　風角　松後　百花
備中　素秋　曲江　斗外　文里　林關　兼一　掉歌
壽彦　五蓬　芦洲　素郎　晋和
備後　愚軒　奇麗　嘯月　荒道　里因　蔵六　喜林
鶴鳴　南路　桃甫　方壺　蕭雨　東翠　遠三　柳翠
六五　一色　梨蝶　光壽　桃園　芝邦　柳
安藝　風律　歌彦　雙蚊　篤老　玄蛙　凡十　可友
守柏　梅佛　五鹿　李石　素白　雨岐　宇月　從史
南皮　荷香　文衣　圭雨　十六　三花　綾彦　其滴
稲焉　枝曉　雨丹　路宅　枕流　金蒲　嘯二　水容

○十

呂調　茶隠　露月　其夕　千可　大巴　共雪　雨竹
ふみ
周防　含洲　湖流　羽琴　為充　蘭臺　古梁　天民
百樹　春鄉　一葉
長門　林風　憐霞　羅風　素道　花蜜　月丸　里山
紀伊　萍左　水賓
淡路　青岐　水虫　李長　花桂　荊玉　桂山　桃堂
岳龍　白英　春調
阿波　白理　青橋　葦泊　藍堂　鳴雄　弓雄　六珈
露井　吳雪　羊虫　土芳　蒲峯　千化　寄桂　梅子
普鮮　墨友　石蘿　菅六　九花

題叢人名

伊豫　石鼎　☆花明　九万里　土佐　讃岐　霜操　若狭　思水　越前　五鼎

隨友　蓍山　至江　文侯　灝江　雲江　里渊　嵐流　壽卜　連漪

驢妝　米年　白雅　其梅　杜洲　嵐流　時雨雄　巴文

千鬣　其松　梢雨　瓜六　茂推　蟻行　一烏　挑因

芦舟　其遊　予鳳　有極　周雨　鷺白　補石　哥川

五粒　吳天　五搞　吾好　糸月　貫色　東烏　重葉

樗堂　春峨　磊〻　紀及　宗德　玉壺　虎白　白蘚

静山　祈流　送秋　湖芳　桃里　宵我　白蘚

○十一

越中　鳳吹　吳山　越後　祖明　由都留　蓬杣　秋帆　熊登　佐渡　加賀

狄入　卓吹　嵩平　牧童　路丈　路十　山之　二川　見推　文雄　布肉

麻父　正武　壺仙　七里　岐東　年眉　松魚　寒崖　☆千代

听之　詛邑　逆鳥　青阿　桃路　鷺洲　右之　司驢　大瞻

梅此　竟蝶　如空　喜年　丈高　竹童　竹里　晩籟　甚化

李布　陸史　魚心　左釆　吳洋　子臧　敬山　正哥

一庸　其汀　白年　幽晴　史千　其静　此江　桐之

不丈　周恭　石海　國丸　一方　東我　後川

花仙　麥水　豐水　ナえ　佛仙　斗入　松井　眉山
甘谷　車大　鹿古　其友　稲守　半場　江涯　松花
馬佛　梅入　烏平　五葉　音入　とも
丹波　滄洲　武陵　野揚　春涯　白路　桃子　六合
夏皐　梧朗　松美　東眉
丹後　端雄　南畝　馬吹　東陌　竹圃　尺布　似藻
巍道　萬籟　垂耳　昌平　蘿水　燕良　魚眼　栢之
桃之　文白　春湖　冬鶴　潮花　弥芳
但馬　髭風　野牛　寒秀　松居　尚古　鸞崖　南飛
可笑　水卯　菊莽　黄賈　月波　有城　鳳兮
因幡　秋菴　雷師　村之　無関　千溪　南溟

伯耆　魯竹　亞来　眠月　豐明　歸来　沾雪　湖水
出雲　沾嶺　風水　花舟　槁丸　富峯
石見　梨明　古徑　露月　吾風　梨雪　英月
筑前　向水　雨銘　江棧　一招　石蘭　甫尺　莫二
危詞　蝶醉　一萍　瓢風　吳来　古溟　五朗　瑞芝
北溟　柳左　丁〻　巳蘭　浮玉　臥山　玉峩　湖柱
金花　石瞬　再可　可十　杏池　如来　計子　雲平
里帆　麥吾　撫節　哥舌　可升　魯白　寒鴻　李仙
松雄　求古　二蝶　赤秋　其柳　泉左　紅藜　万年
吾成　白志
筑後　双鳥　其成　文角　東鶴　與洲　鉄舟　葵足

洪水　良岱　慶五　輅兆　樫妥　龍白　方舟　芦月
米汝　温古

豐前　夏椎　李亮　應律　些芳　渭水　了國　温水
桂川　箕笠　静齋　秋水　南明　文鷲　大室　一峯
石亭　兎園

豐後　不騫　子駿　頭水　斗周　蘭里　有堂　月化
葵亭　杜由　蝸茗　此柱　南溟　一幹　臨霞　春坡
菅之　楚濤　淇流　花六　真澄　年々　竹杖　龜方
月英　五城　桃序　雙阜　魚舌　斗林
肥前　杭山　盧風　李溪　蘭圃　加十　春亭　文鯉
甲乙　幽雅　清淇　天外　祥禾　鞍風　菊也　其映

天馬　吾友　一路　文兒　大筏　玉阜　定太　金波
文淵　恕交　忍口　春高　虎聽（婁）　翦太　可笑　米蟲
可交　ほめ　琴松　梅調　五英　三津名（土壹）　周作
肥後　綺石　潭月　砂童　眠石　文曉　一壺　仙斧
崔渚　有汝　岫丸　奮磨　蟻城　三考　菊思
日向　塘雨　真彦　竹堂
大隅　雲道
薩摩　鯀々　三桃　斐文　龍門司　琴州　青梁　只冬
巴水
壹岐　三平雄
對馬　花晩　戯蝶　杜洲　仙瓢　曙堂　玉芝　我笑

琴松
小豆島　島芽　無物
八大島　風宜　孤雲
國名不分明　追可考
梨鑑　蔦雫　万艸　吏荆　青丈　茂秋　麗徒　花竹
奇文　和道　鋪雪　秋坡　雨葉　松堂　蒼鷺　周竹
統計二千七十二人

世ノ因樂放下なるいふもあり　てなるひとも
如　我なけうち　鉢を　坊やとも　はは　火をのこ
入るとも　見也　蜀を　ちう　蜂と　彩し　なと
ちまくのわき人乃　めいと　入を　ほう　星　面　盆
古紀　まての　百　我　る　寸　是　を　志　つ　に　拾　ふ　な
外乃　を　を　を　ある　ノ　ひ　ノ　流　大　ゑ　ち　事　に
なを　く　て　ひ　ま　ち　か　ひ　御　を　ほ　ま　ず　ず

重ねつるまゝ年へて大川の月ぬしも
なつかしき御こゝろの句法をむかひ合て
乃心我法をつたへて後世の人の
不ル入ル方ニ和哥に師なし哥ニ言を
ルてなをすべしと古人の求なる
変我をもてふくちかゝ我をもちふ色紙を
なつ我やいま初の林見ル入る山ロ乃枝
折伏りて世にひろめむといふ人あり予乃

題叢跋

浦人た節とのふ松尾芭蕉翁の比諸門
人等外名だたる人々の句ハ諸集ニ散
見すれとも毛吏をの記てを世寛暦比ハ
此ろそ乃仕業まて廣く尋ねあつめ稿くえ
ひて其數一万三千余句ニ至る歌我ハて
其仕例我みむ人を此書にあらしハ閲ら
事なるへしわまた我ハ又れのいろ夫未弟とも
名法けぬへ紀のといふ毛吏を法ハ又常に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

随斎宋長跋

俳諧叢句題叢　榕亭先生撰　全四冊出来

[illegible]

俳諧叢句題叢後編　同撰　全六冊近刻

[illegible]

俳諧故人五百題　松尾芭蕉翁撰　小林　全二冊出来

[illegible]

俳諧續故人五百題　隨斎成美著　全二冊出来

[illegible]

俳諧今五百題　夢南先生輯　小本　全一冊近刻

世の名人より当時よりくるまで名句名吟ずまず数数不可[illegible]
[illegible]初心の人々の大よ伝りとするべき者也

芭蕉翁奥の志をり　湖日摂條輯　全二冊出来

[illegible]

でせ代文藝圖　全一冊　俳諧[illegible]　全一冊

風俗文選より[illegible]その他文[illegible]

日本紀古事記　記々歌集　賀茂真淵門人林居士　諸鳥按　全二冊

[illegible]

正語かゝ[illegible]　賀茂季鷹輯　全一冊

[illegible]

增補牡丹抄　牡丹堂真顔大人閲　滝文橘茅人大人著　全四冊

[illegible]

狂歌[illegible]　狂歌[illegible]　全二冊

狂文四方の花　四方山人著　全二冊

狂文寶合乃記　[illegible]　全三冊

俳諧蚤のあゆみ　[illegible]　全二冊

類題俳諧歌集　四季　慈雄　雜　長歌　物名　連歌　落書　四方歌垣大人輯　前編三冊　後編三冊

[illegible]書ハ上古より元禄の頃までの歌人の俳諧歌を代々の撰集多き中にもとりひろひ[illegible]

立春　かすみ　春立　春立　来　裏々　明

元日聞鶯　連　[illegible]　西行

[illegible]

俳諧發句題彙　椿丘太節先生輯　名可　地名　全四冊

一名俳諧千五百題

延壽養生談　全一冊

左傳杜解補　濱劍先生著　綿城先生序文　全一冊

茶人系譜　全一折

故實今物語　全六冊

風流志道軒傳　風来山人　平賀源内著　全二冊

根なし草　風来山人　平賀源内著　全二冊

大山系譜　桂林山人著　全一冊

新刀銘盡　桂林山人著　全一冊

俳諧
家流　薄口千宿先生著　書札文集　全一
　　詩歌文集　全一
　　玉尚帖　全一

俳諧
家流　市川先生著　花鳥往来　全一
　　消息集　全一

俳諧
本　二十六歌仙　松花堂宗孝先生著　各一冊
　　高麗帖　恵純先生著

狂歌二葉集　演色墨人輯　全一冊

俳諧九日集　一具庵夢南選　全二冊
　　丹青八乙二翁は発句とせり　遊人の句は所々
　　にあり

俳諧　さゝ砂子　青猿翁選　全一冊
　　題は俳行脚の章句　時流行に発句をあつむ

四方合巻袋大成　古夢遊人作　小本　全一冊
　　四方八五さうのもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり
　　ものをもつくらひとくべくしてはやくとくとくのあり

實語教童子教　振鷺亭真店著　全一冊
　　ひとつとは二世界の中心なり　大なるは天上より八ひろの海をつけ　小なるは八ひろ
　　九ひろ　ひくくは地獄を限り　中は畜生　餓鬼　阿修羅　人間　天上　の六道

教訓孝行帖　御家流真名書　高山四知筆　全一冊
　　今川状　庭訓　往来　ほか　ひらがなつくし
　　おくるものよりおくられるものへ　ものをくれくれとくるものの中なり
　　まくらもおくるものくるものの　ものをもらうてすぐごとし

将棋啓蒙西義　仙石先生著　全一冊

新選碁經大全　秋山仙蔵著　全三冊

俳諧茶摺小木　一具芙南上人撰　全一冊

語息齋詩文集　関孝和先生著　小林　全一冊

文政三年庚辰三月刻成

江戸四日市廣小路

書物問屋　上總屋利兵衛梓